

平成28年度 横浜市市民活動支援センター運営事業部門

(委託事業：平成26年度から平成30年度の5か年事業)

平成28年度 横浜市市民活動支援センター事業報告書

平成29年度 横浜市市民活動支援センター事業計画書

実施団体：特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

# 2016（平成28）年度横浜市市民活動支援センター事業報告書

管理運営：認定 NPO 法人市民セクターよこはま

## I. 2016 年度（平成 28 年度）事業の振り返り

### テーマ 1.

**社会的な課題の解決や、市民の力がより良く活きる環境づくりに向けてネットワークづくりを多様に進めました。**

現在懸案となっている、（2014 年度実施した活動団体アンケートでも明らかになった）社会的な問題・課題について根本的な解決につながるよう、市民活動実践者や所管する行政セクション、テーマごとの中間支援機関、大学研究者などで、「協働型の学び合いの場（パブリック★スクール）をつくる」ことに引き続き取り組みました。

2016 年度は、市民の力がより良く活きる環境づくりに向けて、市民局市民活動支援課と協働し、以下のことを新規に取り組みました。

- 課題解決や、より活動しやすい環境づくりに向けて、横浜の市民セクターの核となるつながりをつくるため、横浜市エリアの市民活動団体、企業、行政等が、互いに育ち合うことを目指し、地域支え合いフォーラムを実施、パートナーシップミーティングでは、NPO と企業等がつながるきっかけをつくりました。
- 「横浜市市民協働条例」施行後 3 年の機会に、協働に関わるさまざまな主体が、実行委員会を組織し、これからの時代にふさわしい協働のあり方について考え、話し合う機会を市民局と協働でつくりました。

### テーマ 2.

**各区の市民活動支援センターのさらなる中間支援力の向上を目指し、重層的に働きかけました。**

- 18 区の支援センター職員・地域振興課職員を対象としたネットワーク会議、および区版センターをはじめとする中間支援機関職員を対象とした中間支援力アップ研修では、センターの実務に関連したテーマを設定し、日頃の取り組みの見直しにつながるよう働きかけました。
- 上記のネットワーク会議や研修に加え、4 つの区（神奈川区・港北区・青葉区・金沢区）においては、地域の課題解決や魅力づくりに向けた施設間連携の取り組みに当センターが伴走的に関わり、区役所庁内や地域の多様な施設が連携するきっかけとなる情報交換会などがスムーズに開催できるようサポートしました。

## II. 個別の事業報告

### 1. 相談事業 ～体系的な支援体制づくりに向けた相談の取組み～

#### 成果

本年度は、様々な相談に対応できる体制・仕組みづくりに取組み、他のマネジメント支援事業などを含め、団体の成長段階に合わせて体系的に団体をサポートできる仕組みを整備しました。また、新たに責任者・副責任者による予約制相談を実施したことで、専門的な相談について重層的な対応ができるようになりました。

その結果、「専門相談＝当センター」という認知が進み、相談件数が増えました。

#### 課題

専門相談は、業務として会計・総務・労務を長年担当している、NPO 運営に長年携わっている、という経験値の高さによる対応力という面があり、他の職員が同席していっしょに話を聞けば、対応できるようになるとは限りません。

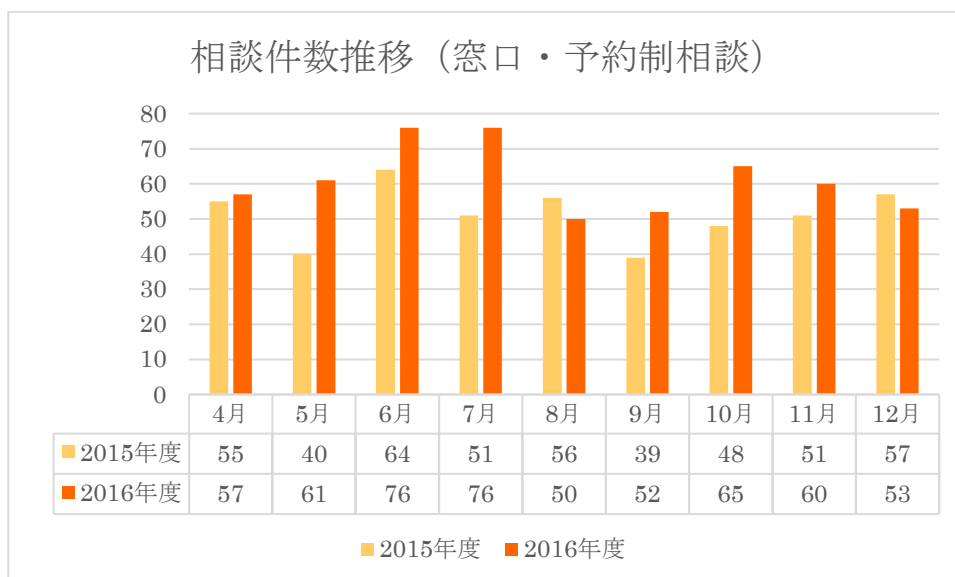
職員がより経験を積み、専門相談に対応できるようになることを意識した職員育成が必要になっています。

#### 実施したこと

##### 1) 日常的な相談対応

これまで蓄積した相談データベースを生かしつつ、団体運営の悩みや、こうありたいという想いに寄り添い、日常の相談に対応しました。職員間で相談内容を共有することで、よりよい情報の提供・相談対応につながるよう努めました。(2) ①の予約制相談のチラシを情報紙発送の際に同封するほか、メールマガジン等で広報する事で、支援センターの相談機能に関する認知が向上し、相談件数が昨年度より、109 件（月平均 12.1 件、12 月末時点）増加しました。

2016 年度相談件数推移（比較：2015 年度）（窓口・予約制相談）





その他、税理士無料相談会 13 件、資金調達応援チーム 7 件、アドバイザー派遣 6 件を加え、支援センターとしての相談の延べ総数は **550 件**（12 月末日時点）となりました。

## 2) その他予約制相談

### ①管理者による予約制相談の実施【新規】

複雑な状況の運営相談について、責任者・副責任者が対応する相談日を設定しました。チラシやメールマガジンにて広報し、電話にてあらかじめ相談内容を伺うことで、より具体的に的確な相談対応をおこなうことができました。

また、新たに活動を立ち上げる団体の相談については、先行している団体の紹介等、団体の抱えている課題に応じ、コーディネートを行いました。

組織運営・協働・まちづくりに関する相談 担当： 吉原明香	相談実施日	相談件数：27 件 実施日数：計 10 日（下記日程以外の予約相談も上記件数に含む） （6月30日、7月21日、8月11日、9月7日、10月5日、11月17日、12月13日、1月17日、2月24日、3月23日）
	主な相談事例	«企業 CSR» ・自社のスキル・技術を生かして、CSR 活動を行いたいと考えている。強みを活かした活動を展開するために、どのように今後取り組んでいけばよいか。（市内企業より） ・地域の中で認知症カフェを行いたい。地域の団体などとのつながりもなく、どのように活動を展開していけばよいか伺いたい。既に取り組まれている認知症カフェへ見学することはできるか。（地域の薬局より） «複雑な活動内容の団体立ち上げ» ・貧困家庭への支援に関する新規事業を立ち上げたいと考えている。活動にあたって、資金調達や、関係づくりなどについて相談したい。

		<p>(任意団体 (NPO 法人申請中) )</p> <p>«団体世代交代に関する相談»</p> <p>・団体の世代交代ができておらず、団体をどのように継続していくか悩んでいる。新しい理事や次期リーダーをどう確保していけばよいか、どのように運営を考えていけばよいか、相談したい。(市内 NPO 法人)</p>
<p>総務・人事・経理・労務に関する相談</p> <p>担当 :</p> <p>加世田恵美子</p>	<p>相談実施日</p>	<p>相談件数 : 16 件</p> <p>実施日数 : 計 11 日</p> <p>(6 月 16 日、7 月 7 日、7 月 28 日、8 月 22 日、9 月 20 日、10 月 18 日、11 月 24 日、12 月 15 日、1 月 20 日、2 月 9 日、3 月 10 日)</p>
	<p>主な相談事例</p>	<p>«NPO 法人特有の労務・会計・事務について»</p> <p>・NPO 法人の給与、職員を雇用する際の手続きについて知りたい。</p> <p>・事業の大きさにしたが、会計の担当について見直したいと考えている。</p> <p>・NPO 法人を立ち上げたばかりで、寄付金をどのように会計処理したらよいか知りたい。また、認定 NPO 法人を目指す場合、どのような対応が必要か。</p> <p>・代表の引き継ぎに伴い、NPO 法人の事務を引き継ぐこととなった。NPO 法人の事務について伺いたい。</p> <p>«他事業との連携・紹介»</p> <p>・税理士の無料予約相談を利用し、今後取り組むべき課題が見つかったが、どのように処理を行えばよいか、分かるスタッフがおらず、困っている。</p>

## ②税理士による無料予約相談会の実施【新規】(24 ページに再掲)

日常の会計処理、NPO 会計基準に則った決算書類の作り方など、会計に関する様々な疑問や悩みに気軽に相談ができる場として、7 月から毎月第 2 火曜日に、「税理士による無料予約相談会」を実施しました。年間を通じ、13 件の相談をいただきました (1 月末時点)。

## ③アドバイザー派遣事業 (23 ページに再掲)

希望する団体に対し、税理士や社会保険労務士といった、専門アドバイザーを派遣しました。団体の事務所に訪問する特色を生かし、団体の悩みに細やかに応えることができました。年間を通じ、5 団体 (6 件) から依頼をいただきました。

## ④「横浜市 NPO 法人資金調達おうえんチーム」による資金調達相談会の実施【新規】

日本政策金融公庫、横浜市信用保証協会、横浜市市民活動支援センターの 3 者で、資金調達応援チームを結成、融資制度に関する相談会を行いました。下半期 9 月より毎月 1 回相談日を設定し、7 件のご相談をいただきました (1 月末時点)。

### 3) 市民活動支援課 NPO 認証班との連携

市民活動支援課 NPO 法人認証班と役割分担をしながら、相談者の状況やニーズに沿った相談対応・情報提供ができるよう、両相談窓口の連携を行いました。

また、NPO 法の改正（平成 29 年 4 月 1 日施行）について、認証班から説明を受け、法律改正の詳細について理解を深め、窓口等での相談対応へ活かしました。

## 2. 情報の提供・発信事業 ～ 課題解決および地域の魅力アップにつながる活動の見える化～

2014 年度に行ったアンケート結果を活かし、情報紙、ホームページ、メールマガジン、ギャラリーコーナー等、すべての情報提供・発信ツールで、課題解決や魅力づくりにつながる活動の見える化し、市民の方が関心を持つ機会を広げ、活動団体には、より活動に応用できる情報を提供できるよう努めました。

### 実施したこと

#### 1) 情報紙アニマートの発行

- ・ 2016 年度より、デザインをリニューアルしました。
- ・ 年 3 回発行し、特集テーマは、18 号「僕たちは地球に住まわせてもらっていることを、忘れちゃいけない」、19 号「キャリア・アンカーのままに生きる～無限の鉱脈との出会い～」としました。
- ・ 紙面には関連機関情報を積極的に盛り込みました。



20号掲載予定  
特集テーマ  
自分らしく息がつける場所をつくる(仮)  
3月末発行

- ・ 毎号、メイン担当を変えて作成することで、個性を持たせ、事前準備と発行後の活用に時間をかけることで、情報の拡がりネットワークの充実を図りました。

[animato18号]  
8月15日発行

タイトル  
主な内容

#### 僕たちは地球に住まわせてもらっていることを、忘れちゃいけない

横浜市の自然環境の現状を伝える論説や体験記、活動を通じて自然の大切や自然との関わり方を伝えている団体・活動者の方の取材記事を掲載。

【2-3P】特集：大岡川の源流を訪ねて

【4-5P】「自然を敬う心」を取り戻したい（豊田 直之さん）

【6-7P】自然が発するメッセージを受け取れるようになる手助け  
(ハンミョウの会)

		<p>【8-9P】 自然での体験を通して、自分の居場所をみつけて欲しい (山田 陽治さん)</p> <p>【10-11P】 緑を守り育む ～身近な自然とおつきあい～ (NPO 法人 よこはま里山研究所)</p>
	<p>編集プロセス</p>	<p>横浜市の緑被率が 30%を切る危機的な状況にあるという話題が企画会で挙がり、この現状を広く知ってもらいたいという問題意識から企画を立ち上げていきました。小さい頃から自然に親しむことが大切さである一方で、自然とのふれあいと現存する自然環境を保護していくことのバランスをとることは容易でないことから、今後に向けた「自然のたしなみ」を読者に感じてもらえるような内容としました。</p> <p>&lt;企画会議参加者(五十音順) 3名&gt; 事務局: 吉原、薄井、関尾、宮澤 開催日: 5/10(火) 18:30~21:00</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・岩室 晶子 さん(NPO 法人 I LOVE つづき 理事長)</li> <li>・豊田 直之 さん(NPO 法人海の森・山の森事務局 理事長)</li> <li>・吉武 美保子 さん(NPO 法人よこはま里山研究所 理事)</li> </ul>
	<p>読者の反響</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表紙のデザインが、今までよりもずっと手に取りやすくなりました。特集ページのやわらかい雰囲気もいいですね。</li> <li>・いつも楽しみにして読んでいます。取材記事に執筆者の個性が出ていて面白いと思いました。</li> <li>・表紙を見ただけでは、どんな特集やテーマなのかわかりにくい。さらに工夫を。</li> </ul>
<p>【animato19号】 12月6日発行</p>	<p>タイトル 主な内容</p>	<p><b>キャリア・アンカーのままに生きる～無限の鉱脈との出会い～</b></p> <p>キャリア・アンカー(職業などを選ぶ時に最も大切にしている価値観)を大切にしながら、ソーシャルな分野で活動されている3人の女性への取材と、社会教育学者の入江直子先生へのインタビュー記事で構成しました。</p> <p>【2-3P】 パラレルキャリアが地域の未来を切り開く(肥後貴美子さん)</p> <p>【4-5P】 大人も子どももみんなが集まれるコミュニティに(松本美佐さん)</p> <p>【6-7P】 自分が自分らしくいられる場所(小栗ショウコさん)</p> <p>【8-9P】 人間は「中年の危機」をどう生きるのか (社会教育学者 入江直子先生)</p> <p>【10-11P】 ワークライフデザインのはじめ方、先達からのメッセージ、編集後記</p>
	<p>編集プロセス</p>	<p>40~50歳代の女性をメインターゲットに、人生の後半期の生き方について考えるきっかけとなる号にしたいと思い、まずは企画会議を開催しました。企画会議では、40・50代になると、豊かさの問い直しや人間の本質に気づくといった様々な議論がなされましたが、「無限の鉱脈」という言葉が全員の共感を呼び、19号のキーワードとなりました。企画会議で候補に挙がった方々への取材・インタビューを行い、編集作業を進めていきました。企画会議参加者については、ソーシャル活動の先達という立場で誌面に登場していただき、連絡先を掲載することで、読者が気軽に相談できるようにしました。</p> <p>&lt;企画会議参加者(五十音順) 5名&gt; 事務局: 吉原、薄井、関尾、宮澤 開催日: 8/26(金) 18:00~20:30</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鈴木 智香子 さん(NPO 法人街カフェ大倉山ミエル 代表)</li> <li>・谷川 みちる さん(横浜市市民局市民活動支援課)</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・塚原 泉 さん（神奈川区地域子育て支援拠点かなーちえ 施設長）</li> <li>・常光 明子 さん（男女共同参画センター横浜南 館長）</li> <li>・治田 友香 さん （関内イノベーションイニシアティブ株式会社 代表取締役社長）</li> </ul>
	読者の反響	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最初に登場された3人も、三者三様で良かったです。活動内容、フィロソフィー、そしてライフストーリーが一体となっている、インタビューの構成が良かった。企画の意図が良く感じとれました。</li> <li>・それぞれのテーマ、フィールドで活躍する女性たちの、しなやかで粘り強いエネルギーが伝わってきました。読みながらなんだかエールをいただいたような感じがしました。</li> <li>・「無限の鉦脈」についてのコラムに感銘を受けました。市民活動や地域活動を実践していく中で、もちろん辛い事ある。けれども、生きている手応えを感じながら進んでいける道でもある。と思いました。それを共有したくて、活動している友人に冊子を届けました。</li> </ul>

※アニマート20号は、3月末発行予定で、準備を進めています。(3月に追記)

## 2) ホームページの運営

- ◆HPでの情報公開と同時に、管理運営団体（市民セクターよこはま）のHPやfacebookと連動させることで、当センターHPへのアクセス数を増加させることができました。
  - ・1日平均アクセスのべ613ページビュー（2015年度1日平均352ページビュー）でした。
- ◆全体構成を見直し、マイナーチェンジを図りました。
  - ・トップページの空スペース、そして掲示板を積極的に活用し、HPに訪れた方が迷わないよう配置を工夫
  - ・トップページの文字量を多くしてしまうと、読みにくくなってしまいますので、トップ画面はシンプルに設計し、説明不足を防ぐために、興味のある方はリンク先に情報を掲載（PDF）しました。
  - ・当センターのお知らせやイベント情報等、新たに追加されたイベントがどれなのか等、分かりやすく発信することを心がけました。

## 3) メールマガジン「アニマートピコ！」の運営

- ・月に1回、年間計13件のメールマガジンを発行しました。7月は「地域支え合いフォーラム」の広報のため、臨時号を発行しました。
- ・登録数2168名（2017年1月21日時点）。
- ・市民活動支援センター事業と、掲載依頼のあったもの、当センターでピックアップした助成金情報、ボランティア・イベント募集情報等を配信しました。
- ・名刺交換した方を積極的に登録し、登録数を増やしました。
- ・各区の支援センター職員が登録しているメーリングリストにも転載し、情報を共有しました。

## 4) ギャラリーコーナーの運営

4階ギャラリーコーナーを情報発信ツールとして認識してもらえよう、5階入り口の情報掲示板「ズーミーイン」



にて、紹介しました。ギャラリーコーナー利用実績は、14 団体/年（1 月末時点）でした。

また、団体の利用が無い期間に、センターの情報誌「アニマート」のバックナンバー等の掲示を行いました。（2 月・3 月に企画。後日追記）



## 5) NPO 法人事業報告書閲覧コーナーの運営

NPO 法人を所轄する市民活動支援課と連携し、NPO 法人から毎年提出される事業報告書等を閲覧コーナーで公開し、助成金情報を調べられるコーナーを近くに設置することで、市民の方や利用登録団体の皆さまが、NPO 法人の活動や運営に対する関心を持つ機会を広げていきました。

- ・2016 年度の事業報告書閲覧者数 1 3 5 人、閲覧件数 3 4 0 団体(12 月末日時点)
- (2015 年度の事業報告書閲覧者数 217 人、閲覧件数 330 団体)

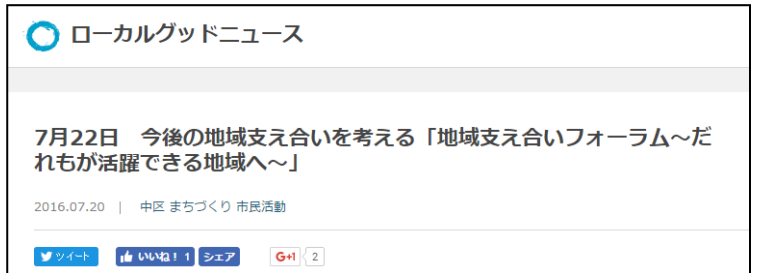


## 6) 図書コーナーの運営

市民活動に関する雑誌を定期購読し、また、書籍を購入し、充実をはかりました。また、より手に取って頂けるよう、図書コーナーの表示、ラベル表示などを更新しました。

## 7) メディアの活用による発信

企業の情報発信サイトや中間支援組織のホームページなど、さまざまな情報発信の媒体を活用し幅広い人に情報を届けました。



※掲載していただいたメディアリスト

- ・ とくらく（東急）  
東急電鉄が運営する Web メディア（東急沿線のヒト・コト・モノ・バの情報を掲載）
- ・ ソーシャルポートヨコハマ  
横浜のソーシャルビジネス・社会起業に関する情報を発信する情報サイト
- ・ ローカルグッドヨコハマ  
地域に暮らす市民や企業、団体が地域のことに意識を持ち、できる範囲で、サービス、モノ、カネ、ヒト情報の循環をつくっていくことを目指すウェブサイト
- ・ 関内フューチャーセンターメールマガジン  
あたらしい「働き方」や「ライフスタイル」「価値観」と出会うコワーキングスペースのメールマガジン

### 3. 各区の市民活動支援センター支援事業

今年度も引き続き、さまざまな取り組みを通して、今後ますます各区の支援センターに求められる地域支援力・中間支援力の向上に取り組みました。

#### 実施したこと

##### 1) 各区の支援センターの持つノウハウを共有し、一緒に考えるネットワーク会議の実施

###### 実施した内容

18区すべての支援センターと地域振興課職員を対象としたネットワーク会議を、年5回開催。各回完結型で、センター事業に関わる実務的なテーマを設定し、情報共有やワークなどを通じて、互いに学び合っていくスタイルで実施しました。

とくに、毎回行ったテーマに関する事前アンケート調査では、収集・分析に力を入れ、その結果をもとに情報共有・意見交換するなど取り組みました。

※ 第1回の会議は、18区の地域振興課職員のみを対象として、区版支援センターの運営について考える機会としました。

<p><b>【第1回】</b> 6月17日(金) 地域振興課職員： 25名(17区)</p>	<p>主な内容</p>	<p><b>&lt;テーマ：支援センターの運営&gt;</b></p> <p><b>ねらい</b></p> <p>区の取組状況や課題に応じた事業の企画・運営に向けて、センター事業の計画作成や体制づくりの進め方について考える</p> <p><b>内容</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ネットワーク会議 成果のまとめ (Q&amp;A 集より)</li> <li>横浜の生涯学習</li> <li>センター事業の運営について</li> <li>事前アンケートの集計結果の共有・情報交換</li> </ul>
	<p>事前調査の分析及び内容への反映</p>	<p>直営センター、民営センターそれぞれにおける、新規事業の導入や事業計画づくりなどの状況等、センター運営に関する現状と課題を把握しました。センター職員の事業企画への参画状況などに違いが見られました。</p>
	<p>結果</p>	<p>「各区の一押し事業に関する情報が役に立った」というほか、各区での事業企画の進め方に違いがあることを知り、自区の参考にしたいなどの声が聞かれました (ふりかえりシートより)</p>
<p><b>【第2回】</b> 7月27日(水) 地域振興課職員： 16名(16区) センター職員： 17名(16区)</p>	<p>内容</p>	<p><b>&lt;テーマ：支援センターの情報紙&gt;</b></p> <p><b>ねらい</b></p> <p>区民が活動につながるうえで、重要な媒体となる情報紙を、より効果的なものに改善していくための方法等について知ること</p> <p><b>内容</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>導入「情報紙ある？ある！」 横浜市市民活動支援センター：吉原 明香</li> <li>事前アンケートの共有・ディスカッション</li> <li>個人ワーク/グループ内でのワーク共有・ディスカッション</li> </ul>
	<p>事前調査の分析及び内容への反映</p>	<p>調査では、センター情報紙の、掲載内容・配布方法・企画編集プロセス等について詳細を把握したほか、実際の紙面を「区民目線」で見的过程中で気づいたことを踏まえながら、「情報紙づくり5つの視点」を提示しました。</p>

	結果	<p>各区で情報紙の配布先に特色が見られ、参考になったという声が聞かれました。また、届けたい情報をしっかりと読んでもらうために、掲載内容や配布先など、常にメインターゲットに相応しい方法を採用することの大切さを多くの職員が感じていました。</p>
<p><b>【第3回】</b> 10月26日(水) 地域振興課職員： 11名(11区) センター職員： 16名(16区)</p>	<p>主な内容</p>	<p><b>&lt;テーマ：団体支援&gt;</b></p> <p><b>ねらい</b></p> <p>センターによる団体支援の対象としている層について、その方向性やアプローチ方法・関係づくりを検討すること</p> <p><b>内容</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事前アンケートの集計・分析結果の共有</li> <li>「団体支援を考える セカンドステップに向けて」 横浜市市民活動支援センター 吉原 明香</li> <li>事例発表「泉区：団体活動支援講座～本気で作るNPO～」 泉区地域振興課 谷田 紗也佳 さん</li> <li>事例発表「戸塚区：とつかお結び広場」 とつか区民活動センター 中嶋 伴子 さん</li> <li>情報提供「NPO 法人について」 市民局市民活動支援課（NPO 認証班）坂田 弘太郎、野田 実</li> </ul>
	事前調査の分析及び内容への反映	<p>区版センターで団体支援の対象について、とくに力を入れている層や、関わりが進んでいない層などを集計・分析することで、各区の傾向を可視化する形でお互いに知ることができました。</p>
	結果	<p>多方面にわたる団体とのつながりを生み出している「おむすび広場（戸塚区）」や、事業評価・分析にもとづき企画運営している「NPO 入門講座（泉区）」の事例、そしてアンケート結果の共有から、センターとして関わりを深めたい団体に対して、どのようにアプローチするのかを考える機会となりました。</p>
<p><b>【第4回】</b> 1月31日(火) 地域振興課職員： 8名8区 センター職員： 12名12区</p>	<p>主な内容</p>	<p><b>&lt;テーマ：相談対応&gt;</b></p> <p><b>ねらい</b></p> <p>区版センターにおける、個人・団体に対する相談対応に関する進め方や考え方、相談員としてのスキルアップについて、情報共有・検討すること</p> <p><b>内容</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事前アンケートの集計・分析結果の共有</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>相談対応を考える～想いをくみ取り、寄り添う相談へ～</li> <li>グループワーク「団体支援に関する相談対応について」</li> </ul>
	事前調査の分析及び内容への反映	各区の相談業務について、とくに個人に対する対応方法や進め方をまとめ、相談の流れに応じた3つのステップ「インテーク」「コーディネート」「クロージング」を提示することができました。また、相談員としてのスキルアップの機会や場面を、OJT・Off-JT 含め把握することができました。
	結果	個人からの相談への具体的な対応方法等を、事前アンケートの結果から共有することができました。また、個人に対する対応のステップを、団体からの相談に当てはめ、その対応方法や留意点について意見を出し合ったことで、個人と団体の両者を想定した相談対応のノウハウ・工夫をまとめることができました。

<b>【第5回】</b> 3月 日( ) 地域振興課職員： 名 区 センター職員： 名 区	主な内容	<b>&lt;テーマ： &gt;</b> ねらい 内容
	事前調査の分析及び内容への反映	
	結果	※実施後記入

成 果

- 会議を通じて、今後の方向性を考えたり、自分たちの区の見直しきっかけにつながりました（ふりかえりシートより）。事前調査の結果から各区の取組みや工夫を共有するだけでなく、分析した結果から見えてきたことをもとに情報共有・意見交換を進めたことが良かったのではないかと推察されます。  
※例えば、第2回（テーマ：情報誌）・第3回（テーマ：団体支援）では、今後、メインターゲットを意識した取組みが重要であることを共有できました。
- アンケート結果を分析する過程で、市民活動支援課との両者で区版センターの現状を把握することができたり、区の現状に応じたネットワーク会議の企画を進めることができました。  
※第3回では、NPO 認証班担当者とも一緒に企画を進め、各区の職員に対して、どのような内容でNPO 法人について説明するのか、議論をしました。
- これまで4年間のネットワーク会議の取組みを通して、事業計画策定プロセスへの、センター職員の参画の重要性について共有してきました。今年度第1回の事前調査の結果から、17区で、センター職員が事業計画策定プロセスに関わっていることが分かりました。

## 課題

- ふりかえりシートを見ると、ネットワーク会議が、他区から具体的な取組み・ノウハウなどの参考情報を得ている場であることが伺えます。そのように、会議を通じた情報収集や気づきが事業改善・見直しにどのように活かされているのかを知る上で、継続調査が必要です。
- 職員の異動等で体制が入れ替わる中で、安定的・継続的なセンター運営に向けて、「支援センター Q&A 集」をより活用しやすい内容にするなどのことが課題となっています。

## 2) 各区の支援センターの地域支援力・中間支援力向上を目指した伴走支援（通年・希望区）

- ・ 施設間連携のための伴走支援（神奈川区・港北区・青葉区・金沢区）  
区の支援センターがコーディネーター役となり、区内の区民利用施設が連携・協働し、地域の担い手づくりに取り組んでいけるよう、情報交換会や連続講座、ワークショップ等の実施を支援しました。

神奈川区	実施内容	第1回（9/28）および第2回（2/1）の施設間連携会議 ほかに打合せ2回
		施設間連携会議が2回開催されました。第1回（9/28）では、講義「ネットワーク構築のメリットと可能性」の後、ワークショップでは、パーソナ的な人物に対して、地域の施設・団体と連携してどのようにアプローチするかについて、参加者同士で考え合いました。 第2回では、講義「ニーズや課題、スケジュールを共有し、セカンドステップへ」の後、エリアごとの各グループで事業実施内容とスケジュールを共有しました。フリータイムでは、連携を探る施設を指名し、その可能性について、話し合う時間を設けたところ、7事業について継続して話し合うもつことにつながりました。
港北区	実施内容	4月～1月区役所の各部署が連携し、区内全施設ヒアリングを実施。2-3月でエリアごとに施設間連携会議6回実施予定。ほかに打合せ2回
		ヒアリング結果を共有し、エリアごとの施設間連携会議の進め方について検討、初回のエリア会議の際の講義とファシリテーターを務めました。そのほかのエリアについて区のセンター職員が講義やファシリテートができるようレクチャーを実施しました。
青葉区	実施内容	第4回（12/8）区民利用施設交流会 ほかに打合せ1回
		講義「サードステップへ向けて」で、個別支援の必要性を伝え、その後ワークショップで、パーソナ的な人物に対して、地域の施設・団体と連携してどのようにアプローチするかについて、参加者同士で考え合いました。また連携のツールとして、ビブリオバトルのやり方を実演で学びました。
金沢区	実施内容	（9/29）施設連携会議 ほかに打合せ2回
		金沢区がこれまで行ってきた取組みをお聞きし、これからの施設連携会議のあり方について検討しました。また、「ネットワーク構築のメリットと可能性」について講義後、施設のもつ課題と解決策について相互にアドバイスし合うワークショップを行いました。

### 3) 教育委員会と連携した新任者研修およびフォローアップ研修

#### 実施した内容

各区の支援センターに配属された新人職員向けの研修を、教育委員会と連携して実施しました。把握している区の状況や、教育委員会との意見交換を通じて、今後はさらに相談対応力を向上させていく必要があるとの認識から、生涯学習相談や生涯学級についての基礎について、留意して進めました。

<b>新任者研修</b> 4月25日(水)  センター職員： 32名(15区+横浜市市民活動センター)	<b>内容</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義「生涯学習概論」 教育委員会生涯学習文化財課 吉見江利さん</li> <li>市民活動・生涯学習支援の実務について① なか区民活動センター 大谷 敦子さん</li> <li>講義「市民活動概論」 市民局市民活動支援課 宇野 紘子</li> <li>講義「横浜市市民活動支援センターについて」 横浜市市民活動支援センター 吉原 明香</li> <li>市民活動・生涯学習支援の実務について② とつか区民活動センター 中嶋伴子さん</li> <li>ワークショップ</li> </ul>
	<b>結果</b>
	中区・戸塚区のセンター職員による実務のお話は、日頃の業務にあたるうえでの大事なポイントを学ぶうえで参考になったほか、他区の事例について知りたいという声が聞かれたことから、他区の事例を聞いたり、参加者同士の交流を通じて、他区センターの取り組みに対する関心が高まったものと思われまます。

<b>フォローアップ研修</b> 2月7日(火)  24名(14区+横浜市市民活動センター)	<b>内容</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義「相談員2年目に向けて」/ワーク「ペルソナワーク」 横浜市市民活動支援センター 吉原 明香</li> <li>講義「人材バンクについて」「事業の企画と運営について」</li> <li>ワーク「1年間のふりかえり」 社会教育コーナー 福島 伸枝さん</li> </ul>
	<b>結果</b>
	新任者として、疑問や不安を感じていることが多い相談対応の業務に対しては、ネットワーク会議第4回での内容をもとに具体的な工夫・考え方を伝えることができました。また、1年間のふりかえりでは、ワークを通じて互いに悩みを共有する中で、自身における今後の課題を見据え、前向きな気持ちで終えることができました。

## 成 果

先輩職員からの話などから、業務の進め方・考え方について具体的に知ることができ、また、同期の職員同士で話し合い、考え合うことを通じて、日頃の業務の中で感じる不安や疑問の解消につながる機会となりました。教育委員会・市民活動支援課・市民活動支援センターの3者で、企画段階から十分に議論したことで、より目的に適ったプログラムとすることができました。

## 課 題

新任者に必要な知識やスキルについては内容が多く、参加者同士の学び合いが十分に深められない部分もあることから、研修時間やプログラムを見直すなどの改善が必要と考えられます。また、新任者が、経験年数に応じて、継続的に学んでいける研修機会をつくることも今後の課題です。

## 4) 中間支援力アップ研修

## 実施した内容

各区の支援センター及び各地域施設等の中間支援力が求められる施設職員を対象とした研修を実施しました。

11月10日(水) 13:30-17:00 参加者 30名	主な内容	<b>テーマ：活動につなげるための相談・コーディネート の理論と実践</b> 講師：早瀬 昇さん（NPO 法人日本ボランティアコーディネーター協会代表） <b>内 容</b> ○講 義「活動につなげるための相談対応～コーディネート の理論と実践～」 ○ワーク「仮想の相談者への対応について考えるワーク」
	結果	<アンケート結果より> <ul style="list-style-type: none"> <li>研修前後で、「相談・コーディネート」の取り組みに対する考え方は変わりましたか。            …「変わった：25名」「変わらない：3名」「まだ分からない：2名」</li> <li>新たに得られた気づきや、印象に残った内容・言葉（自由記述）           <ul style="list-style-type: none"> <li>（講義で印象に残ったことは）相談者の言葉の後ろに隠れているものを見つけるということ。ボランティアは自発的に行うものということ。相談者の言葉を聞くだけでなく、本人の気持ちを聞くことが一番大事ということを、ワークを通じて再確認しました。</li> <li>「自発性は揮発性」本人のやる気はその日が一番ピークという言葉は、すごく納得しました。やる気が続かないのは、その人の問題ではなく、そういうものだけということが分かりました。</li> <li>コーディネートすることの奥の深さを学びました。（印象に残ったのは）「ボランティア」の活動には無限の力があるということ。相談者に対して、</li> </ul> </li> </ul>



私達も創造性をもって対応していこう！という気持ちになりました。

- ・ 依頼者の夢・願いをボランティアとコーディネーターが共感することが重要であることを改めて感じました。

## 成 果

「本人の自発性・主体性を大事にする」「真に望んでいることは何かを深く探る」などのボランティアコーディネーションにおける考え方が、深く印象に残っていることが、ふりかえりシートから見受けられました。区版センター等に対して寄せられる「何か活動を始めたい・参加したい」といった相談対応においても当てはまる大切な基礎として学ぶことができました。

## 課 題

- 相談対応におけるコーディネート能力の底上げをねらいとして、基礎的な内容を学ぶ機会として対象・内容を企画したが、参加者の多くは中堅層の職員でした。
- ボランティアコーディネートの体系化された知識・スキルを身につけるためには、単発での講座実施では限界があるため、今後は、センター職員の所属年数に応じて、継続的にスキルアップできる機会として、研修を企画していくことが課題です。
- 区における相談対応におけるボランティアコーディネートは、今後、さらに向上させていく必要がある部分です。個人のスキルアップはもちろん、来館者（相談者）がセンターに来た記録を残し、別の機会に活動につなげるための仕組みを共通化していくことで、より活動につながる機会が増えると考えられます。



## 5) 「センター運営 Q&A」の更新

2013年度に基礎的な事項を作成し、その後ネットワーク会議の学び合いの成果を基に更新してきました。今年度も、ネットワーク会議で取り上げたテーマに関する内容を「センター運営 Q&A」に加えました。

### 市民活動支援センター 運営Q & A集 項目

- |   |                                  |
|---|----------------------------------|
| 1. 非営利性って、どういう意味？                       | 10. 地域課題の解決に向けた支援ってどうしたらよい？      |
| 2. 公益性って、どういうこと？                        | 11. 地域に出るための工夫は？                 |
| 3. ミーティングルーム（利用登録の必要がない場所）は、誰が何をしてもいいの？ | 12. センターの効果的な空間づくりの工夫は？          |
| 4. 会議室の利用条件は？                           | 13. 民間委託化におけるメリット、デメリットはなに？      |
| 5. チラシ等の配架基準は？                          | 14. 現状、設置されている方面別拠点（ランチ）はどんなところ？ |
| 6. 区民のニーズを知るためにはどうしたらよい？                | 15. 団体支援の目的や具体的な取組方法は？           |
| 7. センターが行う情報提供ってどんなもの？                  | 16. 施設連携の目的や具体的な取組方法は？           |
| 8. 個人情報の取扱いって、どこまで注意が必要なの？              | 17. 広報紙の目的や具体的な取組み方法は？           |
| 9. 事業の振り返りってどうすればよい？                    | 18. 相談対応（個人・団体）の手順や留意事項は？        |

## 4. 市民活動マネジメント支援事業

### ～体系的な支援メニュー、実践している団体との連携で力強くサポート～

一つの団体でも、立ちあげ期に発生する課題、組織が安定するまでの過渡期での課題、年数がたってからの変革期に現れる課題など、その時々で抱える課題が変わります。また、団体に属する個人としても、組織を引っ張るリーダーとして、また会計や労務の担当者としてなど、役割の中で様々な課題を感じ勉強したいと考える方がいます。

これらを踏まえ、2016年度は、学びの機会に相談の機会もあわせ、団体にも個人にも、より体系的に力強くサポートできる体制づくりに取り組みました。



### 実施したこと

#### 1) NPO 運営基礎講座「NPO 法人知っとくセミナー」の開催（よこはま夢ファンド事業）

##### 実施した内容

NPO 全体の基礎体力アップに向けて、団体運営の基盤強化を目的とする講座を開催しました。特に、団体立上げ後、運営に慣れていない、あるいは活動を継続しているが、まだ運営が安定していない団体を対象として、団体運営の基礎に関すること、および寄付の集め方（ファンドレイジング）の初級編をテーマにしました。

<p><b>午前の部</b>                  『NPO 法人の事務編』                  2017年3月6日(月)                  10:00-12:00                  ◆講師：加世田 恵美子 / 関尾 潤 / 薄井 智洋                  (横浜市市民活動支援センター)                  参加者〇名</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>法人事務の年間スケジュール</li> <li>総会の開催手順</li> <li>所轄庁等への届出</li> <li>日常的に発生する事務</li> <li>寄付の集め方(ファンドレイジング) など</li> </ul>
<p><b>午後の部</b>                  『組織・計画づくり編』                  2017年3月6日(月)                  13:15-17:00                  ◆講師：呉 哲煥 氏                  (NPO 法人 CR ファクトリー代表理事)                  参加者〇名</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>NPO・市民活動組織のマネジメントの基礎</li> <li>新たな仲間の巻き込み方</li> <li>年間計画のつくり方</li> </ul>

**成 果**

実施後追記します。

**課 題**

**2) 会計・税務に関する講座(よこはま夢ファンド事業)**

※NPO 法人税理士による公益活動サポートセンターとの協働事業

**実施した内容**

2016年度の「よこはまNPO会計塾」は、昨年度同様、会計知識を身につけるのはこれからという会計初学者向け講座「簿記 基本のキ！」と、会計・経理担当をしているが活動計算書や税務をさらに学びたいという方向けの講座「テーマ編」を実施しました。

**基本編「簿記 基本のキ！」 / 会計初学者向け / 3回連続講座**

<p><b>【第1回】</b>                  7/6(水)                  14:00~17:00</p>	<p>主な内容</p>	<p><b>「仕訳の仕方を学ぼう」</b>                  ・簿記とは ・簿記一巡の手続き ・簿記特有の言葉 ・仕訳の仕方                  講師：吉澤 寿朗氏、サポート講師：松本 理美氏</p>
	<p>結果</p>	<p>参加者数：23名                  アンケート平均点：87.6                  &lt;ふりかえりシートの声&gt;                  ・簿記未経験者にとってもわかりやすい内容でした。                  ・複式簿記の必要性が理解できましたが、それをどのように管理、運用するか、Excelをどう活用するか、会計ソフトは必要かといった話を詳しく聞きたいです。</p>

<b>【第2回】</b> 7/13 (水) 14:00~17:00	主な内容	<b>「帳簿を作ってみよう」</b> ・帳簿の種類 ・仕訳帳から総勘定元帳へ 講師：吉澤 寿朗氏、サポート講師：松本 理美氏
	結果	参加者数：19名 アンケート平均点：65.5 <ふりかえりシートの声> ・収益・費用勘定の締め切りが難しかったです。実際に演習問題をした方が理解しやすかったです。 ・演習を多く取り入れて欲しい。

<b>第3回】</b> 7/20 (水) 14:00~17:00	主な内容	<b>「決算整理を知り、試算表を作ってみよう」</b> ・決算整理（未収・未払、減価償却、棚卸など）とは ・試算表とは 講師：吉澤 寿朗氏、サポート講師：松本 理美氏
	結果	参加者数：20名 アンケート平均点：79.0 <ふりかえりシートの声> ・机の配置を活かし、グループ作業があっても良いと思います。 ・全体が少しずつ見えてきました。繰り返し演習が必要ですね。

### テーマ編 / 会計・経理担当者向け / 講義4回 演習1回

<b>【第1回】</b> 7/27 (水) 14:00~17:00	主な内容	<b>「NPO 会計の全体像を知る」</b> ・NPO会計とは ・1年間の流れ ・日々の処理、月次の処理 ・税金の種類 講師：勝間田 佳代子氏
	結果	参加者数：18名 アンケート平均点：81.4 <ふりかえりシートの声> 難しい会計の方法をうまく説明していただき理解がすすみました。 たくさんの過程があり非常に難しく困難でした。ゆっくりと復習してみます。

<b>【第2回】</b> 8/3 (水) 14:00~17:00	主な内容	<b>「活動計算書について」</b> ・勘定科目の設定 ・決算に必要な準備 ・区分経理とその方法 ・活動計算書の作り方 講師：勝間田 佳代子氏
	結果	参加者数：18名 アンケート平均点：78.3 <ふりかえりシートの声> はじめて会計塾に参加させていただきました。自分自身知識不足なところもあり、少し難しいところもありましたが、講座はあっという間で集中して聞けました。

<b>【演習回】</b> 8/10 (水) 14:00~17:00	主な内容 <b>「活動計算書を作ってみよう」</b> 例題として、実際に活動計算書を作成してみる 講師：勝間田 佳代子氏、サポート講師：澤田 茂氏
	結果 参加者数：8名 アンケート平均点：85.7 <ふりかえりシートの声> 数字の意味づけをもう少し理解できるように復習したい。決算振替仕訳の考え方が難しかった。
<b>【第3回】</b> 8/24 (水) 14:00~17:00	主な内容 <b>「税務手続き その1 ~法人税~」</b> ・NPO 法と法人税法の会計区分 ・収益事業とは ・各種届出書 ・法人税申告書 講師：三浦 利彦氏
	結果 参加者数：21名 アンケート平均点：88.3 <ふりかえりシートの声> 税について全く無知でしたので、少し理解でき、税理士さんに全面的に託すことなく、業務をしていこうと思いました。
<b>【第4回】</b> 9/7 (水) 14:00~17:00	主な内容 <b>「税務手続き その1 ~消費税他~」</b> ・消費税の仕組み ・一般課税と簡易課税 ・源泉所得税の仕組み ・各種届出書 ・申告書 講師：三浦 利彦氏
	結果 参加者数：21名 アンケート平均点：86.4 <ふりかえりシートの声> 届け出のポイントなど一番気になるところを教えていただけて良かった。



## 成 果

基礎編では、全ての回でサポート講師を配置したため、受講生に対する細やかな対応が可能となり、昨年度に比べ、全体的に理解度や満足度の高い講座となりました。講座の前後や休憩時間には、講師に積極的に質問をする受講生の姿が見受けられました。また、帳簿の作成など、受講生にとって最も難解な内容を第2回目に行なったことで、第3回目の講義が理解しやすくなり、受講生にとって講座の最後に達成感のあるプログラムとなりました。

基礎編・テーマ編ともに、会場レイアウトを昨年度までのスクール形式から島形式に変更し、グループごとに学び合い、相談し合う雰囲気生まれました。他団体の活動内容や会計の悩みを共有する貴重な機会となりました。

## 課 題

受講者数が減少した要因として、県民サポートセンターにおいても同様の会計講座（「講座名確認中」）を実施していることが挙げられることから、次年度に向けては、県サポートセンターおよび共催の「NPO 法人税理士による公益活動サポートセンター」と連携し、開催内容の改善、振り分け、広報の協力などを行っていくことが必要です。当センターとしては、基礎編のみの開催とし、開催回数を3回から4回に増やすことで、さらなる理解度や満足度のアップにつなげるプログラムについて検討しました。

### 【講師陣との会計塾振り返りと次年度プログラム検討会】

開催日：2016年10月3日（月）14：00～16：00 参加者8名

全講座終了後、講師陣・事務局・市民活動支援課（認証班）が一堂に会し、2016年度会計塾について受講者の視点、講師の視点、制度の視点からの振り返りを実施しました。

受講後に実施したアンケートの集計結果を元に、受講生の理解度や感想・気づきについて情報共有し、次年度に向けてより学びの進む講座について検討しました。特に、基礎編については、全ての回でサポート講師を配置したため、受講生に対する細やかな対応が可能となり、昨年度に比べ全体的に理解度や満足度の高い講座となりましたが、理解度が低い回があったことから、その回の内容を2回に分け、時間をかけて学ぶプログラムに改善できないか検討しました。また、少人数を想定したグループワーク形式の学びの可能性などについても意見交換しました。

NPOの制度面においては、平成27年度「特定非営利活動法人に関する基礎調査報告書」（抜粋）を元に情報共有を行い、NPO法人会計基準への移行割合や、そのための広報について意見交換しました。

## 3) アドバイザー等派遣（よこはま夢ファンド事業）

### 実施した内容

希望する団体に対し、税理士や社会保険労務士といった、専門アドバイザーを派遣しました。「よこはまNPO会計塾」や「よこはまNPO労務塾」を受けて得た知識を、実際に組織内で取り入れる際のフォローアップとして活用できることも、積極的に周知しました。

【専門家種別】 税理士	派遣回数	5 団体 6 回
	主な相談内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NPO 法人として初めての決算を迎えるにあたり、会計処理に誤りがないかを確認するため。また、法人税等の税務処理及び申告書作成に問題がないか。</li> <li>・横浜市からの委託事業が新規に始まったが、収益事業に該当するかどうか。該当する場合、法人税の算出方法や申告方法についてアドバイスをいただきたい。</li> <li>・「貸借対照表」「財産目録」を提出するにあたり、法人化前の財務を会計上どのように取り扱えば良いか。</li> <li>・NPO 法人としてふさわしい会計方法を専門家にご指導いただきたい。</li> <li>・今の会計方法が NPO 法人として適正なのか疑問があり、活動計算書の様式に変更したい。その場合、活動計算書の勘定科目に現在の使用している科目をどう振り分けたらよいか、専門家にアドバイスしていただきたい。</li> </ul>

成果

「税理士による無料予約相談会」で基本的なことを相談し、さらに相談したい内容がある場合はアドバイザー派遣を利用していただくという流れを構築することができました。アドバイザーが団体の事務所に直接出向き、約 2 時間かけて丁寧なアドバイスを行なうため、団体の様々な悩みや困りごとにも対応できる貴重な相談の機会となっています。

また、今年度からセンターへの委託事業となり、申請から派遣決定までをセンター内で行うことができるようになったため、申込み団体へのスピーディーな対応が可能となりました。

課題

税理士による無料予約相談会とアドバイザー派遣の違いや、それぞれのメリット・デメリットを一覧表にするなど、専門アドバイザーを必要としている団体がいつでも気軽に相談できるように工夫することが必要です。

#### 4) 税理士による無料予約相談会【新規】

※NPO 法人税理士による公益活動サポートセンターと共催

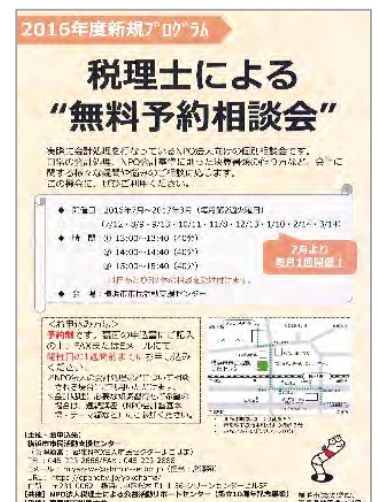
実施した内容

日常の会計処理、NPO 会計基準に則った決算書類の作り方など会計に関する様々な疑問や悩みに気軽に相談ができる場として、7 月から毎月第 2 火曜日に、「税理士による無料予約相談会」を実施しました。

※ 1 日当たり 3 団体の相談を受け付けました。

(1 団体あたり 40 分)

※相談対応団体合計数：19 団体（2017 年 2 月 2 日現在）





【7月12日】	対応団体数 担当税理士	3団体／勝間田 佳代子氏
	主な 相談内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委託事業収益に係る一般管理費相当額の収益額はどのように処理すればよいか。</li> <li>・講師派遣料収入と、電話相談の委託収入は課税事業になるか。</li> <li>・事業内容が収益事業に該当するか否か。</li> </ul>
【8月9日】	対応団体数 担当税理士	2団体／板倉 幸子氏
	主な 相談内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・帳簿など会計書類について。給与・報酬に対する源泉。</li> <li>・会計のまとめができる人材を育成したい。</li> </ul>
【9月13日】	対応団体数 担当税理士	2団体／荒井 枝美氏
	主な 相談内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の決算書形式が活動計算書として通用するか。</li> <li>・任意団体から法人化を検討中、税務面で留意することは。</li> </ul>
【10月11日】	対応団体数 担当税理士	3団体／宮原 牧子氏
	主な 相談内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国税、県税、市税、法務局、市役所等への提出書類のチェック。</li> <li>・収益、非収益の按分について。</li> </ul>
【11月8日】	対応団体数 担当税理士	3団体／澤田 茂氏
	主な 相談内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無償ボランティアの会計処理について。</li> <li>・財務諸表の見方について。</li> <li>・勘定科目の体系、納税負担について。</li> </ul>
【12月13日】	対応団体数 担当税理士	3団体／柳澤 泰子氏
	主な 相談内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員給与の記帳方法、社会保険の処理、職員の所得税。</li> <li>・月一回のバザー開催は物品販売として収益事業の扱いになるか。</li> <li>・不動産取得税、固定資産税の減免について。</li> </ul>

【1月10日】	対応団体数 担当税理士	3団体／近藤 千冬氏
	主な 相談内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタッフ、ボランティアについての源泉徴収方法について</li> <li>・各事業所の財務諸表の合算、金融機関への対応法方法について</li> <li>・NPO 法人の税金について</li> </ul>
【2月14日】	対応団体数 担当税理士	?団体／三宅 啓之氏
	主な 相談内容	実施後追記
【3月14日】	対応団体数 担当税理士	?団体／羽石 一夫氏
	主な 相談内容	実施後追記

【同席】 横浜市市民活動支援センター職員：加世田恵美子・宮澤勝子

#### 成果

税理士による無料予約相談会で解決できない内容に対しては、アドバイザー派遣をお勧めすることで、団体の会計を正しく確実なものとするための支援体制を構築することができました。

また、税理士による無料予約相談会への問合せ内容を詳しくヒアリングすることで、内容や希望日時によっては、「管理者による予約制相談会」などをご案内することもあり、団体にとってはセンターの相談事業全体を知っていただく機会となり、センターとしては相談件数全体の増加につながりました。

さらには、当センター職員が同席することで、活動団体が会計のどこをつまづきやすいのかを詳しく知る機会にもなりましたので、今後の講座運営や相談対応に活かします。

#### 課題

次年度に向けては、相談会を利用された団体にアンケートを実施するなど、共催の「NPO 法人税理士による公益活動サポートセンター」とさらに連携し、満足度の高い相談会となるよう検討していく必要があります。

また、会計に関するよくある悩みについて、職員全体で共有し、団体からの簡単な質問や相談などに対応できる体制づくりについても検討が必要です。

## 5) 税理士有志との勉強会への協力

開催日：2016年10月11日（火）13：00～16：00 参加者 25名

NPO 法人の中にも、税理士に相談したり、顧問契約を検討する団体が増えてきました。しかし、実際にNPO 法人の会計に関わり、実態を理解している税理士はまだ少数のため、「NPO 法人税理士による公益活動サポートセンター」の会員税理士に対し、NPO 会計の理解促進とNPO 法人の実状把握のための勉強会を開催しました。

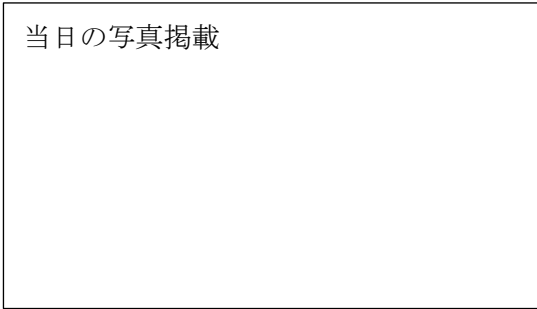
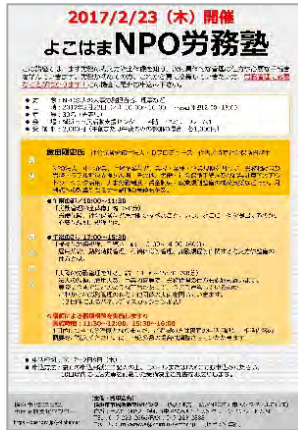
## 6) 労務実践者講座（よこはま夢ファンド事業）

### 実施した内容

開催日：2017年2月23日（木）10：00～16：00

組織は“人”からできています。その“人”がいまいきと働ける職場づくりをめざし、昨年度に引き続き、労務管理の基礎を学ぶ講座と、働き方の工夫をしている法人の事例紹介を行う講座である「よこはまNPO労務塾」を開催しました。

<p><b>【開催日】</b> 2月23日(木) 10：00～16：00</p>	<p>主な内容 講師</p>	<p><b>「労務管理の全体像」編 10:00～11:30（90分）</b></p> <p>労働保険、社会保険など雇用側がすべきこと。いつ、どこに、何を提出するのか。必要な規則、規程とは。</p> <p>講師：飯田剛史氏 (社会保険労務士法人・Dフーズ代表／特定社会保険労務士)</p> <p><b>「様々な労務規程、手続き」編 13:00～15:30（60分）</b></p> <p>雇用契約、勤務時間管理、有給休暇等管理、サービス規程等に関する考え方や整備の仕方とは。</p> <p>講師：飯田剛史氏 (社会保険労務士法人・Dフーズ代表／特定社会保険労務士)</p> <p><b>「実際の労務管理を知る」編 14:00～15:30（90分）</b></p> <p>～NPO法人事例紹介～</p> <p>労務管理上で特に苦労したこと、工夫したこと。労務管理の整備と法人の成長の関係 など</p> <p>&lt;発表者&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・關 富美子氏（認定NPO法人ワーカーズ・コレクティブ樹 理事長）</li> <li>・服部 恵津子氏（認定NPO法人だんだんの樹 理事長）</li> </ul> <p>&lt;コーディネーター&gt;</p> <p>横浜市市民活動支援センター 責任者 吉原 明香（認定NPO法人市民セクターよこはま）</p> <p>&lt;アドバイザー&gt;</p> <p>飯田 剛史氏</p>
	<p>結果</p>	<p>事後に記載</p>



成果

※事後に記載

課題

※事後に記載

## 7) NPO 法人設立講座の共催

いずみ区民活動支援センター、市民活動支援課 NPO 法人認証班と NPO 法人設立講座を共催し、設立に関する事務手続きの説明の際に併せて、NPO 法人の共通理念の大切さと事務の流れを説明する機会を設け、NPO 法人の共通理念を理解していただく機会を設けました。

実施した内容

◆ 開催日：2016年6月3日（金）9：30～12：00

なぜ NPO 法人になるのか、法人としての義務、法人の目的・名称の定め方、仲間の集め方や役員の決め方、総会の開催方法、運営に必要な労務や会計の準備など、ワークを踏まえて学ぶ機会としました。

◆ 開催日：2016年6月10日（金）9：30～12：00

市民活動支援課認証班の職員を講師に、NPO 法人設立の流れを知り、実際に使用する申請書類の書き方ワークを実施。泉区の NPO 法人をゲストにお招きし、申請時の苦労などを振り返っていただきながら、NPO 法人の運営の難しさややりがい、法人としての未来をお話いただきました。

### 「本気でつくる NPO」～NPO 法人設立に必要な準備と手続き～

対象：NPO 法人の設立を考えている、泉区在住、在勤、在学者 / 2 回連続講座

【第 1 回】

6/3（金）  
9:30～12:00

主な内容

#### 「想い」を「カタチ」にする NPO 運営方法

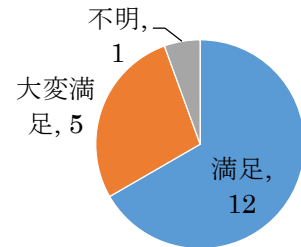
・法人としての義務、法人の目的・名称の定め方、仲間の集め方や役員の決め方、総会の開催方法、運営に必要な労務や会計の準備など、ワークを踏まえて実施。

講師：吉原明香（横浜市市民活動支援センター 責任者）

参加者数：20 名

アンケート評価

満足	12
大変満足	5
不明	1
やや不満	0
不満	0



結果

<ふりかえりシートの声>

- ・本気で作ろうと思っていなくて参加したが、講義もグループワークもとても興味深く参加できた。
- ・NPO に対しイメージが全く持てていなかったのが、少し持てるようになった。
- ・楽しかったし自分のやりたいことが整理できた。
- ・自分の考えがまとまっていないので、もう少し具体的に考えをまとめてから参加した方が良かったかなと思った。

### 手続きの概要と申請書類の書き方、ミニシンポジウム

NPO 法人設立の流れを知り、実際に使用する申請書類の書き方ワークを行いました。ミニシンポジウムでは、泉区の NPO 法人をゲストにお招きし、申請時の苦労などを振り返っていただきながら、NPO 法人の運営の難しさややりがい、法人としての未来をお話しいただきました。

主な内容

【登壇者】

- ・泉 直子氏（NPO 法人 ちょこっといずみ（泉区緑園）理事長）
- ・武井 麻衣子氏  
（NPO 法人 総合教育サポート グレースファミリエ（泉区中田北）理事長）

【コーディネーター】

吉原明香（横浜市市民活動支援センター 責任者）

【第 2 回】

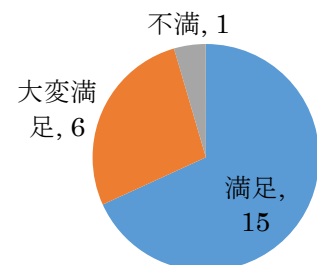
6/10（金）

9:30～12:00

参加者数：22 名

アンケート評価

満足	15
大変満足	6
不満	1



結果

<ふりかえりシートの声>

- ・手続きや申請書類の書き方など大変わかりやすくて良かった。
- ・具体的な話が聞けたシンポジウムの内容がとても良かった。
- ・NPO 設立のステップ・アプローチが見えてきた。
- ・NPO 法人した 2 人の話が聞けたのがとても良かった。定款の書き方などはすごく難しく、引き続き相談したいと思った。

成果

講座では「NPOって何だろう」というポイントも含む NPO 法人設立手続きまで、受講者の 8 割以上の方から「大変満足」「満足」という評価をいただきました。いずみ区民活動支援センターと共催することにより、区民の方々へ直接声をかけることが出来たため、関係性を築けている状態で講座を始めることができました。

課題

講座の満足度については、受講者のほとんどから「大変満足」「満足」の結果をいただいたが、「大変満足」と回答した受講者が「満足」を下回った理由の 1 つには全体の時間不足、講座内容の消化不足が考えられます。NPO について漠然とした知識がついたという利点はあるものの、申請書類の書き方等を含め実用的で難しい内容も含まれており、理解を深められなかった部分もあるため、個別相談の時間を設けるなど、対策を考える必要があります。



**NPO 設立のポロが県民に集結！**  
**本気でつくるNPO**  
**NPO 法人設立に必要な準備と手続き**

NPO 法人化を考えているけれど、具体的にどう動けばいいか迷っている区民の悩みに応じる NPO 法人設立講座。今の活動をより充実させ、更なる社会貢献を考えている方、この講座で法人化への一歩をいっしょに踏み出しましょう。

**第1回 平成 28 年 6 月 3 日 (金) 9 時 30 分から 12 時**  
**「想い」を「カタチ」にする NPO 運営方法**  
 なぜ NPO 法人になるのか、法人としての義務、法人の目的・名称の定め方、仲間の集め方や役員決め方、総会の開催方法、運営に必要な労務や会計の準備など、ワークを踏まえて具体的に動き出しましょう。

**第2回 平成 28 年 6 月 10 日 (金) 9 時 30 分から 12 時**  
**手続きの概要と申請書類の書き方、ミニ シンポジウム**  
 NPO 法人設立の流れを知り、実際に使用する申請書類の書き方ワークを行います。また、東区の NPO 法人をゲストにお招きし、申請時の苦労などを振り返っていただきながら、NPO 法人の運営の難しさややりがい、法人としての未来をお話いただきます。

**【会場】** 東区役所 4 階 4D 会議室  
**【座席】** NPO 法人の設立を考えている、東区在住、在勤、在学者 各回 20 人  
 応募多数の場合は抽選を行います。抽選結果は 5 月末日(日)までお知らせします。  
 ※2回連続の受講をおすすめします。原則会により、1 部のみ参加も可能です。  
 また、すでに NPO 法人で、運営方法について改めて考えたい方も参加してください。

**【一時休校】** あり (6 月 1 日から半休 5 人まで実行します。応募多数の場合は抽選を行います。)  
**【受講料】** 無料 (一時休校七割料)  
**【申込み】** 平成 28 年 5 月 26 日 (木) までに、電話、FAX、Eメール又は東区役所 1 階  
 いずみ区民活動支援センター 104 室口まで、申込書(すでに活動されている団体の場合は、団体名も、住所、電話番号、一時休校の希望の有無をお知らせください)。

**問合せ** いずみ区民活動支援センター 電話 800-2393  
 FAX 800-2518  
 Eメール iz-siencenter@city.yokohama.jp

いずみ区民活動支援センター・横浜市市民活動支援センター 横浜市市民活動支援センター 共催



## 8) 認定・指定 NPO 法人との連携したマネジメント支援

横浜市内の認定・指定 NPO 法人と連携することで、市民活動団体の運営・活動をより実践的に支援するべく、具体的には、市民活動マネジメント支援事業の 1) 6) 7) の事業を中心に、認定・指定 NPO 法人が持つ強みや実践的なノウハウをお話していただく機会を設け、支援につなげる企画を立ち上げました。

労務実践者講座では、認定 NPO 法人 2 団体 (「認定 NPO 法人ワークス・コレティブ 樹」「認定 NPO 法人だんだんの樹」) によるパネルディスカッション形式の事例発表の時間を設けました。実際に今までにどのような苦労があって、今どう運営しているのかについて、お話ししていただくことで、受講された方が労務を身近にとらえることができるようになりました。

animato19 号では、「認定 NPO 法人あつとほーむ」代表の小栗ショウコさん取材し、法人の活動内容や法人立ち上げに至るまでの経緯などを掲載しました。

## 9) PRO NPO (第5期) (よこはま夢ファンド事業)

NPOの社会的価値を高めるとともに、組織や自分自身のレベルアップを目指し、NPO法人等で実務を担う役職員・スタッフの方々を対象とした全6回の連続講座を実施しました。

### 実施した内容

カリキュラムは、昨年度の重層的な視点からNPOを考える構成「組織マネジメント(1・2回)」「個人のスキルやキャリア(3・4回)」を踏襲しつつ、一部講師・テーマを見直しました。また例年実施している現地見学会においては、横浜を飛び出し他都市で活動しているNPO団体を訪問しました。

<b>【第1回】</b> 9月21日(水) 13:30~17:30 @横浜市市民活動支援センター	<b>「思い」を「カタチ」にする NPO 経営戦略①</b> ~何のために存在するのか?組織使命(ビジョン・ミッション)を考える~ ※社会課題の解決に取り組む上で欠かせない戦略的な考え方について、1~2回の講義で学び合いました。
	<b>結果</b> 講師:山元 圭太氏(株式会社PubliCo 代表取締役 COO) 参加者数:11名 アンケート平均点:85.0 <ふりかえりシートより> 組織の活動目的が大きく、漠然としていること(組織使命が明確化されていないこと)が、活動意欲の低下や団体としてのエネルギー欠如の原因になっていることがわかり、その解決の道を考えて行くきっかけとなりました。
<b>【第2回】</b> 10月19日(水) 13:30~17:30 @横浜市市民活動支援センター	<b>「思い」を「カタチ」にする NPO 経営戦略②</b> ~社会的インパクトを創出するロジックを考える~ ※社会課題の解決に取り組む上で欠かせない戦略的な考え方について、1~2回の講義で学び合いました。
	<b>結果</b> 講師:山元 圭太氏(株式会社PubliCo 代表取締役 COO) 参加者数:13名 アンケート平均点:92.1 <ふりかえりシートより> ロジックモデルを作成することで、自分が漠然と考えていたことや、その考えをどのように行動に移していくかが明確になると感じました。
<b>【第3回】</b> 11月16日(水) 13:30~17:30	<b>「場づくり®」というアプローチ</b> ※「場づくり」について、理論(哲学)と実践方法(技術)について学び、自分が本当にやりたいことの本質に迫りました。特に組織運営の肝である会議の

<p>@ BUKATSU DO</p>		<p>進め方について着目し、自分の内面と活動の現場をどうリンクさせていくか考え合いました。</p> <p>講師：長田 英史氏（NPO 法人れんげ舎 代表理事）</p>
	<p>結果</p>	<p>参加者数：14 名 アンケート平均点：94.3 &lt;ふりかえりシートより&gt; 会議とは出会いの場であり、意思決定の場である。会議は団体としての意思決定の場である認識はあったが、これが出会いの場であるためには、団体としての意思決定をするためには、相互理解のための出会いの場である認識も必要だと思った。そのためにも会議のステップの内 ②質問や③意見のプロセスは大切。</p>
<p>【第 4 回】 12月21日（水） 13:30～17:30 @ BUKATSU DO</p>	<p>主な内容</p>	<p><b>“自分”再発見</b></p> <p>※自分自身の過去を振り返りながら、自分らしさ（自分の軸）を認識し、未来につながるマイヒストリーをワークを踏まえて考え合いました。</p> <p>講師：吉原 明香（横浜市市民活動支援センター責任者/認定 NPO 法人 市民セクターよこはま事務局長） ファシリテーター：関尾 潤（同職員）</p>
	<p>結果</p>	<p>参加者数：9 名 アンケート平均点：85.0 &lt;ふりかえりシートより&gt; NPOの活動には想いとエネルギーが必要。共有する想いはあっても、そこに至る過程、人生の経験は様々であり、みんな同じ想い・・・で始めた活動がうまく行かない時には、立ち止まってそれぞれの“自分”を再発見し、相互に語り、理解しあうことが解決につながることもあると思った。</p>
<p>【第 5 回】 1月18日（水） 11:00～17:00 @世田谷区</p>	<p>主な内容</p>	<p><b>他都市 NPO 団体見学ツアー</b></p> <p>※コミュニティづくりの視点で、世田谷区（自由が丘～二子玉川）の注目事例をフィールドワーク形式で学びました。見学場所：地域共生のいえ 2ヶ所（「シェア奥沢」「ぬくぬくハウス」）、NPO 法人 ら・ら・ら</p>
	<p>結果</p>	<p>参加者数：12 名 アンケート平均点：●● &lt;ふりかえりシートより&gt; ※まとめ次第追記</p>
<p>【第 6 回】 2月15日（水） 13:30～17:30 @横浜市市民活動支援センター</p>	<p>主な内容</p>	<p><b>未来は変えていける</b></p> <p>～社会通念の相対化“常識を疑え”～ 講演では、ものの見方・視点をいつもと変えて、常識を疑いながら自分自身を見つめ直すことなど、新たな日常を創造するために大切な気づきを学び合いました。また、成果発表では、第 1 回から第 5 回までの内容を踏まえて、これからの団体の活動について考えた内容を発表し</p>



	合いました。
	講師：長田 英史氏（NPO 法人れんげ舎 代表理事）
結果	参加者数：●●名 アンケート平均点：●● <ふりかえりシートより> ※終了後記載

### 成果

社会的課題に対するアプローチ方法や、ニーズを知り、社会のしくみをつくるための方法について、受講生同士で学びあい、育ち合うことのできる講座となりました。特に第1～3回の講座では、講義やワークを通じて、団体運営の具体的なスキルを学ぶことができました。日々の活動についてふりかえる機会となり、団体運営の改善策を見つけていくために必要な力を身に付けることができました。

また、第1回目と第2回目の間に、組織全体で考える宿題を設定したため、受講生が中心となり自団体のミッション・ビジョン・インパクトについて各組織で問い直す貴重な機会を作り出すことができました。

### 課題

「PRO NPO」は今年度で5期目が終了し、毎年受講生の満足度が大変高い講座です。次年度に向けては時代の要請を踏まえ、対象やコンセプトなどを見直すなど、将来を見据えた企画の検討が必要です。



## 5. ネットワーク構築事業

さまざまな社会的問題・地域課題の解決に取り組む市民活動や地域活動の団体と、そこにつながる多様な主体（企業・大学・行政など）とのネットワークづくりの土台をつくるための、協働についての基礎調査を実施しました。多くの団体から回答をいただき、内容については、今後さらにヒアリングなどで補完していきます。

### 実施したこと

#### 1) よこはま市民パブリック★スクールとフォーラムの実施

2014年度に横浜市内の全NPO法人を対象として行った調査結果を受け、2015年度から「介護保険改正に伴う地域支え合いのしくみ再構築」をテーマに取り組んできました。今年度は、引き続き当テーマに関する取り組みを進めるとともに、2つ目のテーマとして「今後の市民活動支援の在り方について」を新たに設定し、取り組みを始めました。

## <介護保険制度の見直しに伴う地域支え合いのしくみ再構築>

### 実施した内容

介護保険制度の見直しという節目にあつて、活動のスタイルも世代も変化の兆しが見えてきた中で、他都市や横浜から注目の事例を学び合い、地域活動のこれからを考える機会として、地域支え合いフォーラムを開催しました。

### ■ 介護保険制度の見直しに伴う地域支え合いフォーラム

<p>7月22日(金) 18:00~20:45 @横浜市情報文化 センター6階 ホール</p>	<p>主な内容</p>	<p><b>プログラム</b></p> <p>「団塊の世代が75歳以上となる2025年に向けて」横浜市健康福祉局</p> <p><b>実践報告</b> ～横浜及び他都市の事例紹介～</p> <p><b>事例1:介護保険事業と「様々なインフォーマル活動に取り組んでいます」</b> 認定NPO 法人じゃんけんぽん(群馬県高崎市) 報告者:井上 謙一 氏(認定NPO 法人じゃんけんぽん 理事長)</p> <p><b>事例2:「プラチナ世代ならではの」の活動があります</b> NPO法人グループたすけあい(青葉区) 報告者:清水 雅子 氏(NPO法人グループたすけあい 理事長)</p> <p><b>事例3:支え合いのまちは「お互いの元気を引き出す」あったかいまちです</b> 千丸台地区社会福祉協議会(保土ケ谷区) 報告者:南出 俊男 氏(千丸台地区社会福祉協議会 会長)</p> <p><b>事例4:「これからどんな暮らしがしたいか・・・」の先に、Cafeがありました</b> Cafeハートフル・ポート(旭区) 報告者:五味 真紀 氏(Cafeハートフル・ポート 店主)</p> <p><b>ディスカッション</b> 実践報告者の方たちと会場の参加者を交えて、ディスカッションを行いました。</p> <p><b>コーディネーター</b> 清水 洋行 氏(千葉大学文学部 地域社会学・都市社会学専攻) 吉原 明香(横浜市市民活動支援センター 責任者)</p>
---	-------------	--

	結果	<p>参加者数：220名 アンケート平均点：86.8</p> <p>&lt;アンケート（参加者の声）より&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これからの時代に向けて、少しイメージが持てました。また自分が何ができるか、より何がしたいかを考えるよいきっかけとなりました。</li> <li>・最近生活支援コーディネーターとなりましたが今日発表された方たちがまさに、それにあたりと感じました。地域の方からいろいろ学んでいきたいとあらためて感じました。</li> <li>・モチベーションがあがりました。ありがとうございます。行政は支援という立ち位置ではなく、パートナーとして同じ視線で協働すべきと改めて思いました。一方で・・・「2時間半の中で詰め込み過ぎ。」「活動の様子が映像で見られるとずっと良かった。」という声もいただきました。</li> </ul>
--	----	--

## <市民活動支援編>

### 実施した内容

「社会的問題解決に向けた調査研究（2014年度実施）」、および「みんなの協働フォーラム」に先立って行われたアンケートの結果から、今後の市民活動支援の在り方や具体策について検討する必要性が挙げられました。そこで、パブリックスクールとして以下のテーマおよび論点を設定し、3回の意見交換会を実施しました。

今年度は、2020年に横浜市役所移転に伴い、市役所内に設置される「市民協働スペース」に市民活動支援機能が備わることから、「新市庁舎における市民協働スペースについて」を論点にして、市域・区域の中間支援系組織の方たちと一緒に意見交換会を行いました。

■ 2016年度の取り組み 各回、内容に応じた、ディスカッションを実施しました。

<p>12月12日 (月) 18:30-20:30 @横浜市市民活動支援センター  11名(オブザーバー、事務局含む)</p>	主な内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 趣旨説明</li> <li>● 総務局より説明 -新市庁舎における市民協働スペースについて</li> <li>● 意見交換会 -横浜市の未来予想図と想定・期待される市民活動の姿について -市民活動支援において求められる機能について</li> </ul>
---	------	---

<p>2月27日(火) 16:30-20:30 @横浜市市民活動支援センター 14名(オブザーバー、事務局含む)</p>	<p>主な内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 意見交換会             <ul style="list-style-type: none"> <li>-市民活動支援において求められる機能について</li> <li>-市民活動支援で求められる機能から考える市民協働スペースの在り方について</li> </ul> </li> </ul>
--	-------------	---

<p>1月11日(水) 13:00~19:00 @横浜市市民活動支援センター 14名(オブザーバー、事務局含む)</p>	<p>主な内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 意見交換会             <ul style="list-style-type: none"> <li>-現行の市民活動支援の取組みの今後のあり方について</li> <li>-今後新たに期待される市民活動支援の取組について</li> </ul> </li> </ul>
--	-------------	--

成果

横浜市では、区域単位や地区単位で活動する活動団体が多く、また、区内の NPO をはじめ様々な団体・機関のネットワークが広がっている中で、一層区域での支援体制の構築が今後の課題とされる一方、現行の市民活動支援センター機能を引き継ぐ予定の「市民協働スペース」においてどのような機能が必要とされるのか、多くのアイデア・意見が出されました。

課題

現行の市民活動支援センター機能を引き継ぐ予定の「市民協働スペース」について議論する中で、各区の市民活動支援センターをはじめ区域の中間支援団体・機関やネットワークと市域の中間支援機関・団体が、いかに連携を図っていくかということが、重要な課題として挙がりました。次年度は、それらの議論を引き継ぎながら、各区の市民活動支援センターのあり方について検討していくことが課題です。

## 2) 認定・指定 NPO 法人のネットワークづくり【新規】

横浜には認定・指定 NPO 法人が約 60 団体ありますが、それらの団体が有機的につながり合えるような関係づくりを行ない、多様な主体とつながり合うことの必然性を理解できるよう、それぞれの団体のネットワークのきっかけをつくるべく、企画を検討しました。

認定・指定 NPO 法人ネットワークづくり 企画検討会

<p><b>【開催日】</b>                  9月23日(金)                  14:00~17:00                  @横浜市市民活動支援センター5階会議室</p>	<p>主要内容</p>	<p>① 企画会趣旨説明</p> <p>② 当センターに実施してほしい講座について意見交換</p> <p>③ 今後の関係づくりについての意見交換</p> <p>参加者・参加団体</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小栗昭子さん（認定 NPO 法人あっとほーむ）</li> <li>・厚地美香子さん（認定 NPO 法人あっちこっち）</li> <li>・伊吾田善行さん（認定 NPO 法人地球市民 A C T かながわ）</li> <li>・池畑博美さん（認定 NPO 法人エンパワメントかながわ）</li> <li>・瀬上倫弘さん（認定 NPO 法人国際連合世界食糧計画 W F P 協会）</li> </ul>
	<p>結果</p>	<p>【参加者の声】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相互に補い合えるような（目的を達成するため）異業種交流できる場が欲しい。</li> <li>・様々な業種の方のお話を聞いてみたい。CSR・CSV を理解するには、まずは企業の業務を理解しなければ難しい。</li> <li>・社会へのインパクトを考える講座を開催してほしい。なぜ繋がらなければならないのか、先が見える関係づくりではなく、よりお互いが生きる関係になるために。</li> <li>・認定法人が抱えている問題は、分野が違えど関係ないことはない。相互に考え合い、学び合う機会がほしい。</li> <li>・メリットをしっかり打ち出さないと、講座には参加しないと思う（忙しいので）、例えば人材育成の場として、団体複数人で参加する場などは良いのでは。</li> <li>・NPO 法、認定制度の認知度が低いので、一般市民に伝えるような場が必要</li> <li>・信頼関係が大事なので、継続して関係をつなげる場づくり。</li> </ul>  <p>【成果】</p> <p>様々な主体とつながることの必然性を理解してもらう講座が良いのではと、貴重な意見をいただく事ができました。団体に足りないものを明確にすることで、セクターを超えた関係を築き、相互に補うことの大切さに気付き、社会的インパクトについて考える講座を実施することになりました。</p> <p>【課題】</p> <p>セクターを超えて協働することが大切だと、理解している一方で、NPO 法、認定制度の認知度が低いために、協働が進まないという意見もありました。</p>

## ロジックモデル講座の実施

<b>【開催日】</b> 2月27日(月) 9:30~17:30 @横浜市市民活動支援センター	主な内容	<b>ロジックモデルを極める ～社会的インパクト評価時代に向けて～</b> 法人のミッション・ビジョンの再整理やロジックモデルの作成を通じて、社会的インパクト評価に対応した具体的な成果につながる事業計画の作成に役立ち、様々な主体とつながることの必然性を理解する講座を開催。(2/27)
	結果	事後に記載

## 3) 「これからの時代にふさわしい協働のあり方」について【新規】

※市民活動支援課協働班と協働事務局

横浜市市民協働条例の施行(2013年)から3年ごとに行う条例の施行状況の検討に際し、さまざまな協働の主体や市民が、これからの時代にふさわしい協働のあり方について考え話し合う機会を創出しました。

## ◆市民協働条例に関する検討ワーキングの開催

条例の施行状況の検討に際して必要な視点、アンケートやフォーラムの内容を話し合うためにワーキングを開催しました。

<b>第1回</b>	5月2日(月) 14:00~17:00	(1) 条例の施行状況の検討に際し、必要な視点や現状の課題に関すること (2) アンケートの実施に関すること (3) フォーラムの実施に関すること
<b>第2回</b>	6月3日(金) 18:30~21:00	(1) 条例の施行状況の検討に際し、必要な視点や現状の課題に関すること (2) アンケートの実施に関すること (3) フォーラムの実施に関すること
<b>第3回</b>	6月14日(火) 18:00~21:00	(1) アンケートの実施に関すること (2) フォーラムの実施に関する打合せ
<b>第4回</b>	7月1日(金) 18:30~21:00	(1) アンケートの内容検討 (2) フォーラムの実施に関する打合せ、日程確定
<b>第5回</b>	7月26日(火) 18:00~21:00	(1) アンケートの内容検討 (2) フォーラムの実施に関する打合せ、日程確定
<b>第6回</b>	9月27日(火) 18:00~21:00	フォーラム開催に向けた打合せ

第7回	11月7(月) 18:00~21:00	(1)フォーラムの振り返りについて (2)アンケート回答結果について (3)意見交換
第8回	12月5(月) 18:00~21:00	「条例の施行状況の検討報告書」に関する意見交換
第9回	2月7日 (火) 18:30~21:00	事後に記載

#### 【構成メンバー】(五十音順)

伊藤 真知子さん (NPO 法人いこいの家夢みん)  
 内海 宏さん (NPO 法人横浜プランナーズネットワーク/新しい協働を考える会)  
 永岡 鉄平さん (NPO 法人フェアスタートサポート 代表理事)  
 中嶋 伴子さん (NPO 法人くみんネットワークとつか)  
 中島 智人さん (産業能率大学経営学部 准教授)  
 原 美紀さん (NPO 法人びーのびーの/新しい協働を考える会 )  
 治田 友香さん (関内イノベーションイニシアティブ株式会社 代表取締役)  
 松岡 美子さん (NPO 法人グリーンママ 理事長)  
 松村 正治さん (NPO 法人よこはま里山研究所 NORA 理事長)  
 三輪 律江さん (横浜市立大学学術院国際総合科学群 准教授)  
 山根 誠さん (松見2丁目西部町内会 会長)

事務局：横浜市市民局市民活動支援課、横浜市市民活動支援センター



◆みんなの協働フォーラム満員の会場風景

#### ◆みんなの協働フォーラムの開催

「協働」を取り巻く環境の変化や成果などを振り返り、改めて市民活動や 協働、条例についての意見交換を行い、今後の「市民協働」のあり方や横浜らしい「協働」の姿を模索することを目的にみんなの協働フォーラムを開催しました。

『みんなの協働フォーラム』 ～市民の力が横浜のあったかい未来を創る！！～

【開催日】

10月10日(祝・月) 12:30～17:00  
@横浜市情報文化センター6階ホール

主な内容

～社会的インパクト評価時代に向けて～

【全体会 I】『協働に進化の兆しアリ』

横浜市には、地域の特性に応じて、市民の知恵により多様な協働が行われ、「協働の風土」が培われてきました。それらが生まれた背景や最新事例を共有し、協働の進化の兆しを捉えました。

■コーディネーター：内海宏さん（NPO 法人横浜プランナーズネットワーク）

中島智人さん（産業能率大学経営学部 准教授）



【分科会 I】『市民からの提案、その先の未来』

分科会 I では、提案制度を「市民の自由な発想に基づく事業展開」や「地域・市民を笑顔にするコトづくり」に繋げるため、市民やNPO・企業・地縁団体・行政など多様な主体が参加・連携し、地域のプロジェクトを実現するためのプロセスや、必要な支援について考えました。

■事例①：条例第10条による提案事業第1号

★事例発表者：

- ・近藤博昭さん、兼弘彰さん（ほどがや 人・まち・文化振興会）
- ・田並静さん（元保土ヶ谷区政推進課 担当係長）

■事例②：公民連携による課題解決型公募モデル事業

★事例発表者：

- ・石塚淳さん（三菱地所レジデンス株式会社 横浜事業部）

★質問と参加型の共有タイム

■事例③：ヨコハマ市民まち普請事業の挑戦者たち

★事例発表者：

- ・前田未来さん、岩間千秋さん（街の家族）
- ・都市整備局地域まちづくり課

★企画メンバー：

- ・治田友香さん（関内イノベーションイニシアティブ(株) 代表取締役）
- ・三輪律江さん（横浜市立大学大学院国際総合科学群 准教授）
- ・永岡鉄平さん（NPO 法人フェアスタートサポート 代表理事）
- ・伊藤真知子さん（NPO 法人いこいの家夢みん 理事長）



-----  
**【分科会Ⅱ】『地域の中の「私」「共」「公共』』**

分科会Ⅱでは、地縁組織として、テーマ型の団体として、市民が連帯してまちをつくってきた中で培われた自治のスピリットを生かした、これからの地域づくりを考えました。

■事例①：「一人の中学生と私のおせっかいから始まるこの5年のお話し」

★事例発表者：

・栗林知絵子さん（NPO 法人豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク理事長）

■事例②：「自分探しと地域デビュー 「とつか宿場まつり」開催までの道のりとこれから」

★事例発表者：

・根岸正夫さん（戸塚見知楽会 代表/ とつか宿場まつり実行委員会 委員長）

■参加型ワーク

★企画メンバー：

・松村正治さん（NPO 法人よこはま里山研究所（NORA）理事長）

・山根誠さん（松見2丁目西部町内会 会長）

・中嶋伴子さん（NPO 法人くみんネットワークとつか 職員）

・吉原明香（認定 NPO 法人市民セクターよこはま 事務局長）



-----  
**【分科会Ⅲ】『やっぱり肝！?条例&契約再考』**

分科会Ⅲでは、協働契約を締結している事例（契約の甲乙の立場から）から、契約や評価の際に必要な視点、契約のあるべき姿や可能性などを考えました。

■市民協働条例の可能性

★事例発表者：

・森田明弁護士（法律事務所 横濱アカデミア）

■事例①：とつか区民活動センター

★事例発表者：

・田辺由美子さん（とつか区民活動センター センター長）

■事例②：18区の地域子育て支援拠点

★事例発表者：

- ・横田美和子さん（南区子育て支援拠点 はぐはぐの樹 施設長）
  - ・「アンケート結果の共有」
  - ・「会場からの発信」
  - ・「今後に向けた提案」

★企画メンバー：

- ・原美紀さん（NPO 法人びーのびーの 理事）
- ・松岡美子さん（NPO 法人グリーンママ 理事長）

-----  
**【全体会Ⅱ】『協働 Next ステージ』**

各分科会からの報告を踏まえ、今後の協働をさらなる進化に“つなげる”ために欠かせない、「環境づくり」について考えました。市民の力がより生きる提案制度、一人の人のニーズや気づきからはじまるまちづくりの新しいカタチ、進化の礎となる市民協働条例のあり方について、ライブセッションを実施しました。

★登壇者：

- ・山根 誠 さん（松見2丁目西部町内会 会長）
- ・石塚 淳 さん（三菱地所レジデンス株式会社 横浜事業部）
- ・治田友香 さん（関内イノベーションイニシアティブ（株） 代表取締役）
- ・原 美紀 さん（NPO 法人びーのびーの 理事）
- ・吉原明香 さん（認定 NPO 法人市民セクターよこはま 事務局長）



参加者数：181名

アンケート平均点：83.6

<アンケート（参加者の声）より>

- ・コーディネーターの話も大変説得力があり、参考になりました。もう少しじっくり聞きたいと思いました。
- ・どの事例も大変興味深く、引き込まれながら聞かせていただきました。また活動の経緯も詳しく紹介していただき、参考になりました。
- ・協働の歴史や条例の成り立ちから学べて、分科会では事例も伺ってとても興味深く参加できました。
- ・引きこもりのお年寄りが、やりがいを見出して元気に活動されている例を伺い、一歩を踏み出しやすいきっかけ作りや、地域のコミュニケーションづくりの参考にし

結果

たいと思いました。

- ・内容がもりだくさんで、市民協働についてあまり詳しく知らなくても、とても分かりやすい内容だった。
- ・地域のことは地域で解決する大切さを、再認識しました。
- ・制度の周知、受け入れる側の体制が十分でないと考えさせられました。
- ・評価について改めて NPO の評価手法がガラパゴス化している気がしました。なぜ NPO が担うのか、原点に立ち戻る必要がありそうです。
- ・条例、契約についてもっと勉強した方がいいのかなと感じました。

#### 【成果】

- ・告知の際に facebook を活用することで、企画委員の皆さまにシェアしていただき、より多くの方に情報を届けることができました。（1800 リーチ）
- ・市民（自治会町内会、NPO、企業、大学等）や市職員 181 名が参加し、様々な角度から活発な意見交換を行い、今度の市民活動や横浜らしい協働の姿を共有する場を作ることができました。

#### 【課題】

- ・協働への理解がバラバラだったため、既実践している人から見たら物足りないという意見もあった。時間も限られていたため、意見交換できる場を設けるなど、さらなる改善が求められます。
- ・フォーラムを通じて得られたご意見から、今後、多様な主体がつながり、連携していく場がますます求められることがわかりました。これらの場づくり、環境作りに向けて支援センターとしても次年度取り組んでいきたいと考えています。

## 4) 横浜市社会福祉協議会横浜市ボランティアセンターとの連携

2017 年 1 月 31 日に定例会議を実施し、情報交換や互いの事業の広報協力、関東圏で震災が起こった際の市民活動団体の連携や当センターの役割などについて話し合い、信頼関係を積み上げ、相互補完関係をさらに進めるべく、意見交換しました。

また 2 月 5 日に開催された災害ボランティアネットワーク会議主催の DIG 訓練に参加しました。



## 5) 企業・NPO・大学パートナーシップ・ミーティング in 横浜の開催 ※神奈川県との共催

神奈川県による企業・NPO・大学のパートナーシップ支援事業の一環である、マッチング事業の実現に向けたきっかけづくりの場であるパートナーシップ・ミーティングを神奈川県と共催しました。

### 実施した内容

2015年度に引き続き共催した本事業では、基調講演とマッチングワークショップの二本立てのプログラムを企画しました。ワークショップでは、エントリーシートの冊子作成・配付や、参加者全員によるプレゼンタイムを設けるなど、参加者同士がより深く知り合え、マッチングのチャンスが、当日限りにならないよう、新たな工夫を試みました。

2016年8月4日(木)  
13:30-17:30

会場：みなとみらい  
Innovation & Future  
Center (株式会社富士  
通工フサス)

参加者：73名  
(NPO:45名/企業:21  
名/大学:5名/行政:2  
名)

### パートナーシップ・ミーティング in 横浜

～いろいろなものが集まってプロジェクトは実現している～

#### ●基調講演

「いろいろなものが集まってプロジェクトは実現している」

並河 進 氏

(電通ソーシャル・デザイン・エンジン代表)

#### ●マッチングワークショップ

事前に作成したエントリーシートをもとに、参加者全員による全体へのプレゼンを実施。プレゼン後には、興味を持った団体に対して名刺を投票する仕掛けを用意し、マッチングに向けたきっかけづくりをしました。

### マッチング実績

神奈川県と県内中間支援機関との協働による企業・NPO・大学パートナーシップ支援事業を通じて、これまでに実現したマッチング事業は、2012年度14件、2013年度19件、2014年度21件、2015年度25件となっており、単発イベントや企業提供型事業から、継続的なつながりへと、企業ニーズが変化してきました。

### 課 題

どのような団体が参加するのか当日まで分からないため、事前にマッチング事業を提案するのが難しいという意見や、参加団体のテーマ・分野や所属(企業・NPO・大学)に偏りが見られるなどの課題が出たことから、プログラムの企画・広報にあたってさらなる改善が求められます。

## 6) つながりのまちづくりフォーラム 2017 に向けた準備と企画

過去3回の積み上げを発展的に活かして、今後のフォーラム2017の企画につなげるため、2016年度は幅広い地域の事例を知るための団体訪問・ヒアリング等の調査を行いました。

## 実施した内容

下記、3団体のヒアリング調査を行いました。

## &lt;団体訪問・ヒアリング先&gt;

<p><b>ハートフルポート</b> (横浜市旭区)</p> <p>6月21日(火)</p> <p>センター職員3名・市民活動支援課職員1名</p>	<p>個人宅を改築したコミュニティカフェ。ランチ提供のほか、住民参加型の各種イベントを実施。ランチ等でカフェに来た人とのコミュニケーションの中で聞かれる当人の希望や持っているスキルを団体や活動につなげています。</p> <p>情報が集まる場としての機能を持つとともに、住民同士というフラットな関係の中での相談機能も果たしており、地域レベルでの中間支援機能を発揮している特徴が見られました。</p>
<p><b>ジュピのえんがわ</b> (横浜市金沢区)</p> <p>6月24日(金)</p> <p>センター職員3名・市民活動支援課職員2名</p>	<p>改築した空き家で、サロン活動や駄菓子屋を開いている「ジュピのえんがわ」。サロンには、幼児を連れてお母さんたちや、体操系の活動に参加する年配の方、駄菓子屋に来る小学生と、幅広い年代が集う場です。</p> <p>店主をはじめ6名と少人数で形をつくりつつ、ボランティアの方たちにも関わってもらいながら、無理のない活動を展開しています。</p> <p>整備にあたっては、区民活動センターを通じて、金沢区の「空き家等を活用した地域の『茶の間』支援事業」を活用した経緯があり、区の施設・制度を活用したという点も見られました。</p>
<p><b>カフェ&amp;取手アートプロジェクト拠点「いこいの+ Tappino」</b> (茨城県取手市)</p> <p>8月8日(月)</p> <p>センター職員3名・市民活動支援課職員1名</p>	<p>高齢化率約70%(2,000世帯)の団地の一角で拠点「いこいの+」を運営し、運営法人の専門分野であるアートの切り口で、まちづくりに取り組んでいます。</p> <p>特徴的な活動である「とくいの銀行」は、各人が持つ得意なことを仮想銀行に預け、その得意(または特異)を他の人が引き出すことで利用することができる仕組みです。ハードル低い形で、それぞれの持っているものを出し合うことで、地域の中での出番が生まれ、また、交流が生まれる仕組みであることが分かりました。</p>

## 企画に向けて

- 新たな視点や手法で地域の中に「つながり」を生み出している事例を調査する中で、個人宅を開放し、少人数グループでの取り組みでありながら、地域の中での中間支援的な機能を果たしているという形や(ハートフルポート)、公設の中間支援組織(区民活動支援センター)がつなぎ役となって構想が形となった事例(ジュピのえんがわ)など、区域や地区における民間・公設の中間支援組織が果たす役割が見えてきました。

- 他方、例えば、社会的な活動への関心の高まりから、企業との連携・協働による取組みが期待されるなど、「つながり」によって生まれる取組み、「つながり」が期待される取組みは、益々広がっていくことが予想されます。今後は、「つながり」の対象を広げ、さらに検討を深めながら、企画を進めていきます。

## 6. 共同オフィス事業 ～学びあい・育ちあいの進む場づくりを目指して～

入居する団体同士の学びあい・育ちあいが進む場づくり・自治的な運営をコーディネートしつつ、互いに刺激し合い高め合う共同オフィスを目指しました。また市民活動支援課と連携して、今後の共同オフィスのあり方についても検討を進めました。

### 1) 交流の促進

#### 実施した内容

- ・ 入居団体「ニーズ調査」を実施し、入居団体が共同オフィス事業に何を求めているのかを把握しました。その結果を入居団体と共有しつつ、各団体の個別の支援に活かし、共通課題については交流会で共有し、課題の解決につなげました。
- ・ 新旧入居団体の交流を深める場として、年度初めの「オープンミーテ」と、年度の間際の「秋のオープンミーテ」、年度終わりには「活動報告会 & 卒業発表会」を実施しました。
- ・ 気軽に誰でも参加し情報交換できる場として、「定例ランチミーティング（交流会）」を毎月 15 日におこなないました。毎回 2 ～ 3 団体が参加し、じっくりと互いの団体について話し、課題について検討する充実した時間となりました。

5 月 10 日 (火) 18:00～19:30 オープンミーテ・懇親会 10 名 (8 団体)	主な内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自己紹介 (出身・GW の思い出など)</li> <li>・ 共同オフィス利用のルールについて</li> <li>・ ちょこっとワーク (今年の団体の目標・どんな共同オフィスにしたいか)</li> </ul>
8 月 24 日 (水) 19:00～21:00 【夏の懇親会】 9 名 (3 団体、うち事務局 3 名)	主な内容	改めて、互いの自己紹介・団体紹介を行い、「好きな〇〇について」といったテーマで盛り上がりました。普段より近い距離感で、お互いの団体について話しあい、懇親を深めることができました。
11 月 8 日 (火) 18:00～19:30 【秋のオープンミーテ】 7 名 (3 団体、うち事務局 4 名)	主な内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動の状況共有 &amp; ちょこっとアドバイス</li> <li>・ 共同オフィスの使い方について意見交換 (ズーミールーム利用の一般利用者の方について、互いの机・椅子の使用方法についての確認)</li> </ul>

2017年3月13日 (月)	主な内容	・卒業団体による活動報告を行います。(後日加筆修正)
共同オフィス卒業式・ 報告会	結果	事後に記載

## 成果

- ・入居団体同士のランチミーテをきっかけに、子ども支援団体が演劇活動団体を招き、イベントの実施に繋がりました。
- ・PRO NPO、パートナーシップミーティング等のセンターの他事業をご紹介し、参加いただきました。

## 課題

- ・ズーミールームを一般の利用者が利用していると、共同オフィスにまで声が響き、活動に差し障りがあると、利用団体からご意見をいただきました。来年度の入居状況をみながら、レイアウトの変更等を市民活動支援課と検討を進めます。

## 2) 広報の支援

- ・入居団体の紹介パンフレットを発行し、横浜市内の各施設へ送付しました。
- ・大規模発送の際に、団体のチラシやリーフレットを同封することで、広報の支援を行いました。



## 3) 日常的な相談対応・情報提供

- ・相談対応や日常的な窓口での情報提供を行いました。ランチミーテや日常の会話・つながりの中で、支援センター・他施設・他団体に関するイベントや、助成金に関わる情報をお伝えしました。

成 果

- ・ 入居団体に対して、支援センターに届いた助成金情報のうち適合するものをご案内し、応募につながりました。
- ・ センター職員が参加したイベント等で入居団体に関係のある内容や情報をお伝えしました。



## 7. 施設管理事業 ～箱（ハード）と機能（ソフト）の両面を活かして～

より多くの方が訪れ活動しやすく居心地の良い場（ハード面）であると同時に、活動について相談し、発見やつながりを得られるなど、市民活動の拠点となる場（ソフト面）でもあるよう、機能の充実に力を入れました。

### 実施したこと

#### 1) 職員の対応力・接客力のさらなる強化

さらなるサービスの向上のために、職員の接客に関する研修を行いました。

9月27日（火）  
「マナー研修」

主な内容

・接客対応に関する動画の視聴後、窓口や電話での接客について、アサーションについて意見交換を行いました。

1月10日（火）  
「感染症予防研修」

主な内容

・ノロウイルスに関する危機意識と職員の体調管理について確認したのち、施設内で嘔吐があった場合の対応についてシュミレーションを実施しました。



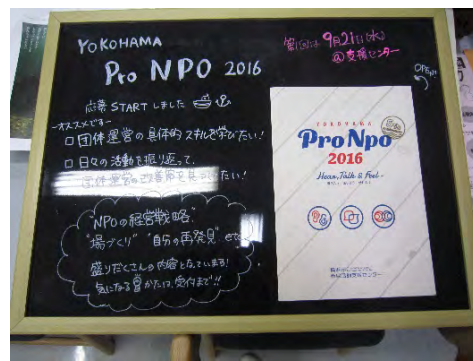
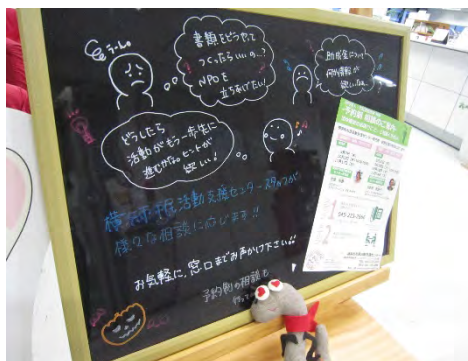
#### 2) 場の提供

利用者にとっての使いやすさ・使い心地よさの視点で、自己評価・利用者評価を実施しながら、下記の点について引き続き見直し、改善を行いました。

- ・ 利用者アンケートの実施：実施期間：2016年9月1日～30日、回答者数：615  
アンケートで頂いたご意見は、掲示物の改善、備品の整備等に反映しました。  
購入物品例：カラープリンター機、USBメモリを直接映写できるプロジェクター等
- ・ ワークショップ広場をより活発に利用いただくよう、活用方法を検討しました。



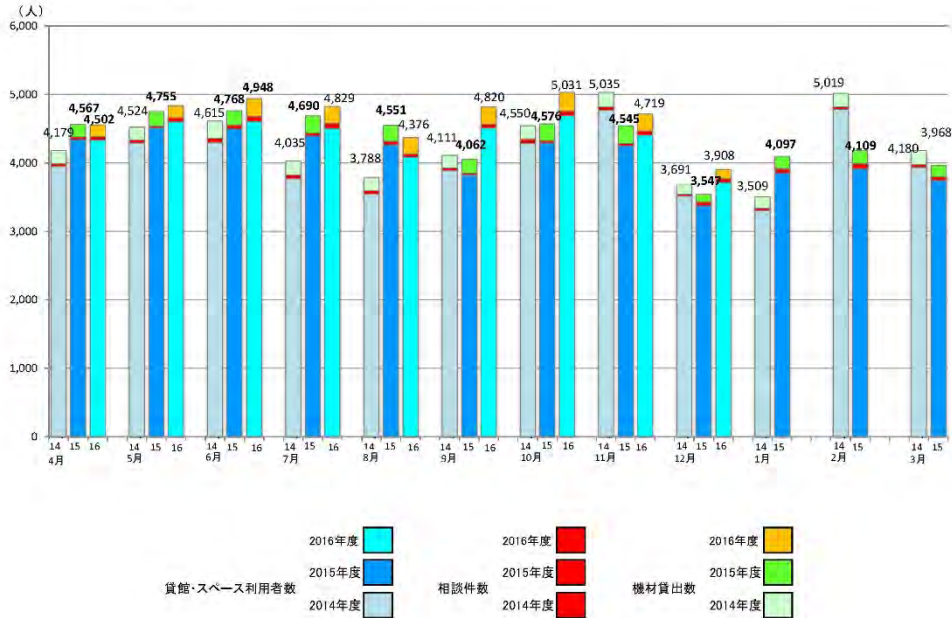
- ギャラリーコーナーは、支援センター情報発信事業と連携し、市民活動に関する情報発信する場として活用
- 助成金コーナー・配架ラック等の整備  
助成金コーナーは、情報をより手に取りやすく調べやすい環境となるよう、レイアウトを変更しました。
- 「お気づき箱」や利用票いただいた利用者意見への取り組み  
頂戴したご意見に可能な限りすぐに対応し、回答を掲示しました。また、ご要望いただいたロッカースペースに設置する物品一時置き用キャリアワゴンを購入しました。
- 「利用のご案内」や「センターパンフレット」の更新  
センターの講座の紹介では、マトリックス図を使用して、分かりやすい紹介を心掛けました。
- 館内掲示  
お手洗いのご案内、コピー機の利用案内、利用者 PC の表示案内をより見やすく更新し、掲示しました。1階エントランスのホワイトボードに利用者さんが利用できる「みんなの伝言板」を作成し、利用者がイベントチラシの掲示、参加者同士の伝言ができるよう整備しました。
- 施設内清掃  
スタッフの会議の時間を使い、空調の吹き出し口、椅子の座面、貸出用パソコンデスクの蓄積した汚れなどの、普段手をつけられないところ・気になる箇所について2か月に一回程度、清掃を行いました。  
季節にあった花や置物を飾ることで、温かな空間づくりに努めました。
- 5階入り口の掲示「ズーミーイン」にて、支援センター事業の紹介や、新着の助成金情報について、ご案内を作成しました。情報に興味のある方・立ち止まってじっくりチラシ等をご覧になっている方にお声かけし、具体的にご案内をすることで、利用者と職員の交流のきっかけと情報提供の機会となりました。



## 年間利用者数の推移

横浜市市民活動支援センター 施設・設備利用数

2014年4月～2016年12月



- ・ 利用者目線に立った接遇：利用者アンケート接遇評価（4段階評価）3.6（前年度3.6）
- ・ 施設・設備利用数 46,439名（月平均4643.9名）
- ・ 貸し室（セミナールーム・ディスカッションルーム）利用実績 平均 212.2件
- ・ ワークショップ広場 利用実績 平均 21.3コマ/月（目標値:19コマ以上）
- ・ ギャラリーコーナー 利用実績 13 団体/年（目標値:19 団体/年）

※1月末時点

### 3) 危機管理 ～マニュアル見直し～

横浜市の防災計画に基づいて、危機管理体制を検討して実地訓練を行いました。災害時対応、救命救急対応に対する職員研修や実施訓練を実施するとともに、防災マニュアル、帰宅困難者一時滞在施設開設時マニュアル等を見直し、誰でも的確な対応ができるよう更新しました。

日常の危機管理としては、個人情報保護、セキュリティ管理について、研修のほか全員会議等で新聞記事の共有を行い、職員全員が意識して職務に取り組みました。事故が起こった場合は、速やかにその原因を究明し、手順表やチェック表を確認・改訂し、全員に周知、再発防止に努めました。

■ 一時滞在施設に関する研修

<p>4月26日（金） 一時滞在施設研修</p>	<p>主な内容</p>	<p>横浜市危機管理課の方にお越しいただき、災害時の一時滞在施設開設について、マニュアルを見直し、検討しました。研修を基礎に、マニュアルを改訂し、次回以降の研修にて、気付いた点をさらに盛り込み、災害時の行動について検討を重ねました。</p>
<p>6月5日（日） - 6月6日（月） 常勤職員宿泊研修</p>	<p>主な内容</p>	<p>常勤職員 6 名で市民活動支援センターに宿泊し、センターにて宿泊する場合の実際の想定を行いました。新たに購入する物品について検討を行いました。 【新たに購入した物品】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毛布</li> <li>・簡易枕</li> <li>・ベビー用品（オムツ、アレルギー除去ミルク、ミルク、離乳食、おしり拭き等）</li> <li>・携帯の充電器、ライト</li> </ul> 
<p>9月13日（火） 風水害による災害時の対応研修</p>	<p>主な内容</p>	<p>全員会議にて、中区の担当職員の方にお越しいただき、風水害の災害時の手順を確認しました。また、複数人数で、4階ワークショップ広場の一時滞在施設開設準備のシュミレーションを行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に段ボールを敷き、収容人数を想定しました。また、災害時即時に対応ができるよう、防災備品の備蓄場所を検討しました。</li> </ul> 

■ 救命救急に関する研修

<p>2月28日（火） 救命救急、 AED 研修</p>	<p>主な内容</p>	<p>NPO 法人 JAEA 河波さん、〇〇さん、…へお越しいただき、AED の使用方法、心肺蘇生法等について研修を頂きました。（予定のため、後日記入） ※実施後・写真を挿入</p>
--------------------------------------	-------------	---

## 8. 横浜市との協働 ～協働の検証を協働で行う～

管理運営における市民活動支援課との協働、各区役所・地域施設等の協働の側面支援をさらに進めました。また、2016年度は、「これからの時代にふさわしい協働のあり方について」の検証や「認定・指定 NPO 法人ネットワーク」においても、より対等な協働が各セクター間で進むよう、積極的に問題を共有し、課題解決に向けて動きました。

### 実施したこと

- 1) 市民活動支援課と定期的な会議を開催するとともに、事業ごとに担当者を複数配置し、報告・連絡・相談に漏れや齟齬が生じないようにしました。
- 2) 市民協働推進部長、市民活動支援課長、係長と当センター運営法人の理事などが参加する組織同士の会議を8月17日（水）に開催し、協働の意義や当センターの今後のあり方について意見交換し、共有しました。
- 3) 協働事業に対する意識を一層醸成するため、協働に関する研修などを、市民活動支援課および地域活動推進課と連携して進めました。

#### 【協働入門研修】

- 6月29日（水）  
@都筑区民活動支援センター
- 7月15日（金）  
@横浜市市民活動支援センター
- 8月25日（木）  
@港南区役所

主な内容

#### ① 協働ってなんだろう？

協働ってなに？なぜ協働が必要なの？どんな効果があるの？という基本的なことや、知っておきたい「協働の6原則」を御伝えしました。

#### ② 協働のすすめ方

認定NPO法人市民セクターよこはま(横浜市市民活動支援センター)

吉原 明香・薄井 智洋

立場の違う人と協力しながら課題解決に取り組む魅力とポイントを、実例を基に講義しました。

#### ③ 事例紹介

地域子育て支援拠点「かなーちえ」施設長 塚原 泉氏

「子育て期の悩みを相談したい…」「子育て中の疲れを解消したい…」

子育て中の方を地域の皆さんとサポートする活動の現場で感じた、協働による取組の効果や、すすめ方について実践者の生の声を伺いました。

#### ④ グループワーク

- 4) 協働の基本知識と、地域や現場で役立つノウハウを学べるeラーニングのカリキュラム制作を市民局地域活動推進課と連携して進めました。
- 5) 認定・指定 NPO 事業報告書サポートミニ講座を5月13日、6月22日に市民活動支援課と連携して行いました。

## 9. 自主事業団体との連携および協力 ～強みと特徴を理解し合う関係を構築～

自主事業団体と運営事業団体がお互いの経験・事業・ノウハウを理解し合い、企画や実施段階から協力・共感できる信頼関係を築くために、対話の場を設け事業全体の質と認知度を向上させる取り組みを行いました。

### <2016 年度実施事業>

提案事業名	団体名
「地元企業を核とした地域課題解決力を高め合うコミュニティづくり」	特定非営利活動法人 ETIC
みんなで作る！「Spice+」 ～若者の参加による活動体験データベースの作成とマッチングと協働の仕組みづくり	特定非営利活動法人アクションポート横浜
カフェ型中間支援機能の創出・強化・普及 「市内コミュニティカフェ運営者の相互交流ネットワーク」	横浜コミュニティカフェネットワーク(YCCN)

### 実施したこと

- 1) 運営事業団体と自主事業団体間で、事業の進捗や情報を共有するため、意見交換会（ランチミーティング）を10月6日（金）12:00～13:00に開催いたしました。
- 2) 広報支援として、以下の取り組みを実施しました。
  - ・当センター発送物への自主事業に関する広報物の同封
  - ・当センターホームページ、メールマガジン「animato pico」、情報誌「animato」に自主事業の内容について掲載
- 3) 各区の支援センターが情報共有を行うネットワーク会議への参加を呼びかけ、各区の支援センターとの協力関係を構築する機会を提供しました。
- 4) 横浜コミュニティカフェネットワーク主催の講座に2月12日（日）参加しました。（後日詳細を追記）

# 2017年度（平成29年度） 横浜市市民活動支援センター事業計画書(案)

## I. 2017年度（平成29年度）事業のねらいと方向性

### ～多様な主体が連携した課題解決に向けて～

市民活動を取り巻く環境が急速に変化してきている中、これまでこの横浜では市民の主体的な力で社会の様々な課題解決に取り組んできたことを踏まえ、横浜市市民活動支援センターとしてのこれまでの積み上げを活用し、市民活動団体の基盤整備の一つとして、様々な主体が連携した課題解決がますます推進されるよう、そのあと押しをしていくことを全体の方針とします。

大都市横浜において、これを実現するためには、市域・区域の中間支援機能をもつ組織や、先進的・開拓的に事業に取り組む活動団体との連携が重要となることから、相互に協力し合うような関係構築をさらに推し進めます。

また各事業は、目的やねらい、実施プロセスや手法、成果指標やその結果をわかりやすく可視化することにより、社会的インパクトを生み出す事業推進を図ります。さらには、職員が多様な主体をつなげていく力量をつけていくことを目指し、外部研修・内部研修を充実させ、人的な組織基盤強化を図ります。

**管理運営：認定NPO法人市民セクターよこはま**

## II. 個別の事業計画

### 1. 相談事業 ラインナップ

地域や社会における課題の解決に主体的に取り組む市民活動・地域活動団体が数多くある中で、立上げ直後で運営に慣れていない団体、活動を継続していてもまだ運営・活動が安定していない団体も多くあります。そこで、本年度は様々な相談に対応できる体制・仕組みをより充実させます。またさまざまな支援組織との連携を図ることで、より体系的に団体をサポートできるセンターを目指します。

名称	内容 特徴	対象	今年度特に取り組むこと	開催目標	成果(年度末記入)
<b>1) 日常的な相談対応</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・団体運営の悩みや、こうありたいという思いに寄り添い、日常の相談に対応します。</li> <li>・専門相談のみならず通常の相談についてもできるだけ事前に予約することをお勧めし、必要な情報を準備した上で、利用頂けるよう、ご案内方法や周知方法について見直します。</li> </ul>	主に市民活動団体（窓口来館のかた・電話・メール等、広く一般の方含む）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページに問合せフォーマットを作成し、より多くの人に相談頂けるようにします。</li> <li>・団体および個人の相談受付カードの改訂を行います</li> <li>具体的には、インテーク・コーディネート・クロージングの手順と留意事項を記載した上で、全体研修・OJTを重ね相談対応の基本形が身に付くようにします。</li> </ul>	65件/月あたり (昨年度：61件/月)	
<b>専門相談 2) -管理者による予約制相談</b>	団体運営や企業CSRの問題・課題については、マネジメント経験が必要なことから、毎月1日、責任者による相談日を設定し、複雑な状況の相談について、対応します。	市民活動団体、地域活動団体、企業、大学、行政等	・2016年度の実施をもとに、チラシに相談の例を入れ込むなど、専門相談のハードルをさげる工夫を行います。	責任者等による 相談日を月1回設定 各5件/月あたり (昨年度：4.7件)	
<b>専門相談【新規】 3) -中間支援組織との連携による予約制相談</b>	横浜市内の主な中間支援組織に対して連携を働きかけ、協働して相談に応じます。各分野に長けた中間支援組織団体が団体の悩みに寄り添い、様々な角度からアドバイスを行うことで、自組織の運営について総合的に考えることができるようサポートします。	市民活動団体、地域活動団体、企業、大学、行政等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度新たな取組みとして、年度前半は各組織との調整にあたります。</li> <li>・本事業を通じた連携により、中間支援同士の生きた情報の流通、相談対応力アップ、広がりのあるコーディネートを意識した相談対応を行います。</li> </ul>	月1回の相談日を設定（仮）	
<b>専門相談 4) -税理士による無料相談</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の会計処理、NPO 会計基準に則った決算書類の作り方など、気軽に相談ができる場として利用することができます。</li> <li>・5月より毎月1回開催・1日当たり3団体の相談を受付</li> <li>①13:00~13:40 (40分) ②14:00~14:40 (40分)</li> <li>③15:00~15:40 (40分)</li> </ul>	会計に関する様々な疑問や悩みをお持ちのNPO法人、市民活動団体	相談会を利用された団体にアンケートを実施するなど、共催の「NPO 法人税理士による公益活動サポートセンター」とさらに連携し、満足度の高い相談会となるよう工夫して実施します。	27件 (昨年度：21件)	
<b>専門相談 5) -アドバイザー派遣制度</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1回の相談時間：2時間程度。</li> <li>・アドバイザー料：5,000円（初回）</li> <li>・税理士や社会保険労務士といった、アドバイザーが団体の事務所に直接出向き、約2時間かけて丁寧なアドバイスを行なうため、団体の様々な悩みや困りごとに対応できます。</li> </ul>	会計税務や労務に関する様々な疑問や悩みをお持ちのNPO法人、市民活動団体	「よこはまNPO会計塾」や「よこはまNPO労務塾」を受講して得た知識を、実際に組織内で取り入れる際の実践導入としても活用できることを周知していきます。	8件 (昨年度：7件)	
<b>専門相談 6) -資金調達おうえんチームによる相談</b>	・日本政策金融公庫・横浜市信用保証協会・横浜市市民活動支援センター・市民局の4者のチームで、融資に関するお悩みに対応します。	資金調達にお悩みの団体	引き続き、月1回の相談日を設定し、さまざまな機会を捉え、多様な方法で周知を図っていきます。	10件 (昨年度：7件)	

## 2. 情報の提供・発信事業 ラインナップ

市民活動や地域活動に関わる情報や企業 CSR に関わる情報、これらを後押しする大学・行政からの情報を市民へわかりやすい形で発信する「市民活動情報メディア」としての意識を持ち、情報紙、インターネット・SNS、施設内を活用し、情報発信をしていきます。また、活動団体にはより活動に応用しやすいかたちで情報を提供できるよう、情報の編集に力を入れます。さらに活動潜在層に対しても、関心を持つ機会を広げるため、積極的に外部メディアと連携し、告知方法を工夫します。

区分	名称	内容 特徴	対象	今年度特に取り組むこと	開催目標	成果
紙媒体による 情報発信	1) 情報紙 「animato」	今後重要と思われる課題や、市民活動団体にとっての関心ごとを視野にいれてテーマを検討し、年3回発行します。 市民活動団体がより幅広い視野で活動できる手助けとなるよう、またまだ活動していない方々には、市民活動や地域に根付いた活動の意義を感じ取っていただけるよう、工夫します。	① 市民活動団体 ② 活動潜在層の一般市民	各号で納まりきらなかった内容は、当センターHPにて公開し、より深く内容を理解していただけるよう、いわゆるディレクターズカット版を執筆・公開していきます。	・年3回発行	
インターネット による 情報発信	2) ホームページ	新着情報はメールマガジンやfacebookと連動して発信し、講座への申込機能を実装することでスムーズに参加できる体制を整えます。初めてアクセスしていただいた方には、市民活動に興味を持っていただけるように、活動者には、「ここに来れば情報が得られる」と思ってもらえるように、HPを運営していきます。	市民活動団体、市内NPO法人、行政機関。	より見やすいHPを目指して、トップページのデザインを見直します。また当センター主催のイベントや講座への申込機能を付け加えます。	・1日平均アクセス数：700ページビュー (昨年度：613ページビュー)	
	3) チャンネル animato【新規】	情報紙 animato の取材の様子や、「おしゃべり animato」(案) (団体・企業等がつながるきっかけとなるトークイベント)等を動画で撮影し、収録した内容を編集後に配信していきます。配信は当センターHPとfacebookページ内を予定しています。	市民活動団体、NPO法人、活動者に向けて配信。	市民活動団体の話を気軽に聞く機会として、動画で撮影し、収録した内容を編集後に配信していきます。この取り組みを得意とするNPO法人や企業CSR部門等と連携し、市民活動を応援するメディアとなることを目指します。	・年3回以上配信	
	4) メールマガジン animato pico	市内で実施される市民活動のイベントや助成金情報を、より多くの方にお伝えするために、配信希望の方、当センタースタッフと名刺交換させていただいた方へ月に一度メールマガジンを配信します	同上	配信されたメールマガジンの情報は、当センターHP、facebookページに掲載し、より多くの方に届けていきます。	・年12回配信	
	5) Facebook	当センターイベント情報や、開催後のレポートを写真と共に掲載します。HPやメールマガジンと連動することで、多くの方に情報を届けられるようにします。	同上	事業担当者によるレポートなど、文章のみでなく写真や動画を掲載し、積極的に活用していきます。「チャンネル animato」と連動し、気軽に市民活動の話聞いていただき、興味を持っていただく機会を増やします。	・平均400ページビュー (昨年度：300ページビュー)	
施設内の情報 発信	6) Zoomy IN!! の運営 (5階入り口の掲示板)	施設利用者が一番目に入りやすい、入口に最新の情報や話題のニュースなどを掲示します。 市民活動に関する情報をお伝えするとともに、施設のあたたかな雰囲気づくりを行います。	施設利用者	・最新の市民活動に関連するニュース・新聞記事などを掲示します。 ・利用者とセンター職員がコミュニケーションをとるきっかけとなるよう、作成に工夫を凝らします。	2~3回更新/月	
	7) 市民活動情報コーナーの運営 (4階)	・市民活動・ボランティアに関する雑誌を配架します。また、話題の書籍なども購入し、配架します。 ・他地域の市民活動支援センターの情報誌などを配架します。	同上	利用者が市民活動に関する情報を集め、来館時に多くの情報を得られるように、活用しやすいような配架方法や掲示内容についてさらに工夫を行います。	1回更新/月	



### 3. 市民活動マネジメント支援事業 ラインナップ

マネジメント支援事業については、さらに支援メニューを分かり易く提示することで、団体が抱える課題や状況に適した支援メニューが選びやすくなるよう工夫します。

名称	内容 特徴	対象	今年度特に取り組むこと	開催目標	成果
<b>1) NPO 法人運営 基礎力アップ講座</b> ※旧名：知っくセミナー	・「法人事務の年間スケジュール」「総会の開催手順」「所轄庁への届出」など NPO 法人として必要な諸手続きや、総会運営など、事務全般について知識を身に着けることで、安定した NPO 法人運営を目指します。	立上げ中または、立上げ後間もない NPO 法人 (NPO 法人の事務について学びたい方)	NPO 法人の年間スケジュールに合わせて講座を開催するだけでなく、講座での内容を窓口相談等でも活用し、情報提供できるように取り組みます。	・2月開催予定 ・定員 30 名	
<b>2) NPO ブラッシュアップ セミナー【新規】</b>	・「助成金申請の書類作成・プレゼン」や「行政・企業等との協働」等において身に着けておきたいポイントを学び合います。 支援者や協働相手との間で発生するやりとりにおいて知っておきたいポイント（作法や考え方）を身に着けることで、団体や活動者自身の渉外スキルのブラッシュアップを目指します。	支援者や協働相手とのよりよい関係構築を図り、団体の活動をさらに展開させていきたい <b>市民活動団体</b>	※2017 年度新規事業	・8月開催予定 ・定員 20 名	
<b>3) 会計・税務に関する講座 「よこはま NPO 会計塾 基本のキ！」</b>	簿記 3 級レベルの講座で基礎知識を得、活動計算書といった NPO 法人独特の会計について学びを深めていきます。	会計知識を身につけるのはこれからという、会計初学者 <b>向け</b>	グループワークを取り入れながら、受講生同士が楽しく学び合い、講座が終わった後も情報交換できるような関係づくりを目指します。	・4 回連続講座（単独受講不可） ・定員 25 名 ・6月下旬～7月中旬に開催予定 (昨年度：23 名)	
<b>4) 労務に関する講座 「よこはま NPO 労務塾」</b>	労務の考え方や全体像を知り、具体的な管理の仕方や必要な手続きを学んでいくことができます。 また、講座と当日、実際に労務で悩んでいることについて、短時間の個別相談ができます。	労務が初めての方、これからさらに整備していきたいという <b>団体向け</b>	いきいきと働ける職場づくりをめざし、労務管理の基礎を学びつつ、労務を身近に感じてもらえるような講座となるよう、プログラムをさらに工夫します。	・2月開催予定 ・定員 30 名 (昨年度：〇〇名)	

#### 4. ネットワーク構築事業 ラインナップ

市民活動団体、地域活動団体、自治会町内会、大学研究者、企業、行政のさまざまなセクションなどと、幅広い主体がつながり合えるよう、多様な取り組みを行います。3年目となるパブリック★スクールについては、引き続きネットワーク構築事業の各事業と連動させて、実施します。

今年度は、NPO・企業・行政・大学など多様な主体が枠を超えて有機的につながり、互いを磨き合う「ダイヤモンドプロジェクト」を新規に打ち出し、ゆるやかなつながりづくりの場として「おしゃべり animato」（仮称）、互いのニーズを共有しマッチングを図る「パートナーシップ・ミーティング」を実施します。

名称	内容 特徴	対象	今年度特に取り組むこと	開催目標	成果
1) <b>ダイヤモンドプロジェクト-おしゃべり animato(仮)</b> 【新規】	<ul style="list-style-type: none"> <li>● メインとなる市民活動団体を設定(認定・指定NPO法人やパートナーシップ・ミーティング参加NPO等と連動)し、その団体の応援につながるような団体や企業・大学などに呼びかけます。</li> <li>● 時宜になかったテーマや情報紙アニマトとも連動させ、トピックを設定して開催します。</li> </ul> ゆるやかにつながり合う場づくりを目指します。 人数は10名～15名(最大)程度とし、 <b>展開によっては、「よこはま市民パブリック★スクール」につなげます。</b>	市民活動団体、NPO法人、地域活動団体、自治会町内会、大学研究者、企業、行政職員(想定)	取り組んでいるプロジェクトの詳細報告やお互いの悩みの共有など、相互にアドバイス、意見交換しながら多様な主体がゆるやかにつながり合い、互いに貢献し合うような関係づくりのきっかけとします。 このことにより、自団体だけでは解決できなかったような問題について、新たなヒントが得られたり、協働や協業のパートナーが見つかったりすることで、社会的インパクトにつながるダイナミックな事業運営の後押しとなることを目指します。	・年3回以上開催(予定)	は
2) <b>ダイヤモンドプロジェクト-パートナーシップ・ミーティング</b>	2015年度から、神奈川県と共催している企業・NPO・大学のマッチング事業を、引き続き共催で実施します。企地域や社会の課題解決に向けたマッチング事業の実現に資する企画とします。	同上	事業を進めるにあたっては、「おしゃべり animato」と連動させ、出会いと学び合いを作る場をつくり、地域や社会の課題解決に向けたマッチングに結びつけられるようにします。	・年1回開催	
3) <b>よこはま市民パブリック★スクールの実施</b>	市民活動団体・NPO法人への調査結果をもとに、テーマを設定し、意見交換を実施、市民による政策提言を目指します。今年度は、「区域の市民活動支援」をテーマに、意見交換会等を実施します。 また、新たなテーマについては他の事業と連動させ、また必要に応じ、設定します。	地域活動団体、NPO法人、各区の市民活動支援センター職員、センター担当職員等 テーマを所管する行政セクションの職員(予定)	検討を進めるにあたっては、市民活動支援センター支援事業における各区センターへの調査とも連動させ、調査結果を参考にしながら、今後の区域の市民活動支援について、より議論を深めていけるように進めていきます。	・2回～4回程度×2～3テーマ程度開催(予定)	
4) <b>協働をテーマとしたフォーラム 2017</b>	2016年度に実施した地域の事例を知るための団体訪問・ヒアリングや <b>昨年実施した「みんなの協働フォーラム」の成果をもとに、協働事例について、企業や行政とともに考え、学び合う、参加型のフォーラムを目指します。</b>	市民活動団体、地域活動団体、自治会町内会、大学研究者、企業、行政職員	開催にあたっては、市域・区域の中間支援機能を持つ団体等と連携し、企画・実施します。	・年1回開催予定	
5) <b>横浜市社会福祉協議会 横浜市ボランティアセンターとの連携</b>	定例会議を年2回程度実施し、情報交換や互いの事業の広報協力、関東圏で震災が起こった際の市民活動団体の連携や当センターの役割などについて話し合い、信頼関係を積み上げ、相互補完関係をさらに進めます。また災害ボランティアネットワーク会議主催のDIG訓練に参加します。	横浜市社会福祉協議会横浜市ボランティアセンター、横浜市市民局市民活動支援課	横浜市ボランティアセンターと連携し、発災時の役割分担等について、お互いのもっている情報や <b>経験</b> などをもとに、見直し・確認していきます。	・横浜市ボランティアセンターと年2回の定例会議を開催。 ・2月開催予定のDIG訓練に参加。	

## 5. 各区の市民活動支援センター支援事業 ラインナップ

区版センター支援事業では、従来、ネットワーク会議を中心に、お互いの情報交換や学び合いを通じて、中間支援力の向上に取り組んできました。

今年度は、各センターの実態把握に力を入れ、その結果を踏まえながら、現状に則した、また中長期的な視野で中間支援力向上に向けて取り組んでいきます。

名称	内容 特徴	対象	開催目標	成果
1) 区版市民活動支援センターを対象とした調査の実施【新規】	これまで、ネットワーク会議等を通じて、各センターの支援力向上に取り組んできました。その間、区における新たな方針や事業展開、あるいは経験を積んだ職員の入替り等によって、区版センターの状況が変化してきたことから、センターの現状把握に向けた訪問調査を行い、今後のセンターにおける中間支援力向上に向けた課題を整理・検討します。	18 区区版センター	質的・量的手法をもとに、18 区対象に訪問調査を実施	
2) 互いに学び合うネットワーク会議の実施	18 区全ての支援センターと地域振興課職員を対象としたネットワーク会議を実施します。情報交換等を通じて、互いのノウハウや運営の工夫等を学び合う場として、年 4 回程度開催します。 ※なお、初回は、18 区の地域振興課職員のみを対象として、支援センターの運営について考える機会とします。	・区版センター職員 ・地域振興課センター担当職員 ※年度初回は、地域振興課職員のみ対象	年 4 回程度開催	
3) 各区の支援センターの中間支援力向上を目指した伴走支援 (通年・希望区)	神奈川区、港北区、栄区、南区の 4 区で実施します。区の支援センターがコーディネーター役となり、区内の区民利用施設が連携・協働し、地域の担い手づくり等に取り組んでいけるよう、情報交換会や連続講座、ワークショップ等の実施を支援します。実施にあたっては、引き続き区役所内の関係部署と区の支援センターが連携して実施できるように働きかけます。	・ 神奈川区 ・ 港北区 ・ 栄区 ・ 南区	施設連携会議の開催 1 区あたり 1～2 回×4 区 ほか実施に向けた打合せ等 合計 10 回程度	
4) 教育委員会と連携した新任者研修およびフォローアップ研修	各区支援センターの新任者を対象とした新任者研修（4～5 月頃）およびフォローアップ研修（2～3 月頃）を教育委員会と連携して開催します	各区支援センターの新任者	4～5 月：新任者研修 2～3 月：フォローアップ研修	
5) 「センター運営 Q&A 集」の更新	ネットワーク会議での内容や、区版センターを対象とした調査の結果をもとに、「センター運営 Q&A 集」を更新します。	・区版センター職員 ・地域振興課センター担当職員	新または更新項目 3～4 程度	
6) NPO 設立講座の開催支援	各区との共催で、NPO 法人設立講座を開催します。各区のセンターが自立的に NPO の運営に資する講座・研修等を実施できるよう支援します。	・区版センター職員 ・地域振興課センター担当職員	3 区を目安に実施	

## 事業 6.7.8.9

事業	内容 特徴	開催目標	成果
<b>6. 共同オフィス事業</b>	<p>実施すること</p> <p>1) 交流の促進  入居団体「ニーズ調査」を実施し、入居団体が共同オフィス事業に何を求めているのかを十分に把握します。その結果を入居団体と共有しつつ、各団体の個別の支援に活かし、共通課題については交流会等で情報共有します。また、新旧入居団体の交流を深め、互いの団体について理解を深める場として、  ①年度初めの「オープンミーテ・活動紹介会」 ②年度途中で「互いの濃い交流につながる場」  ③年度終わりには「活動報告会 &amp; 卒業発表会」を実施します。</p> <p>2) 広報の支援  ・ 情報紙、メールマガジン、FaceBook にて共同オフィスの団体紹介を行います。  ・ 共同オフィスのパンフレットについて、内容を検討し、発行します。  ・ 団体情報や活動内容に関する広報を支援します。（当センター情報紙発送の際に、広報物の同封。）</p> <p>3) 日常的な相談対応・情報提供</p>	オープンミーテ：3 回程度開催	
<b>7. 施設管理事業</b>	<p>1) 職員の相談対応力のさらなる強化</p> <p>2) 場の提供  ・ 利用者アンケートの実施、アンケートで要望のあった意見への対応、備品の整備や掲示物の見直し  ・ 「お気づき箱」と利用票へいただいたご意見への取組み  ・ ギャラリーコーナーの運営  ・ NPO 法人事業報告書閲覧コーナーの運営  ・ 1 階エントランスのホワイトボードを活用し、一目でわかる情報を発信  ・ 「利用のご案内」や「センターパンフレット」の更新・改訂  ・ 整理整頓、清掃の徹底（全職員で施設内・備品等のクリーニングを実施）</p> <p>3) 危機管理（災害に対応マニュアルの更新、感染症予防研修、AED 研修等）</p>	<p>・年間利用者数：56,000 人  （2016 年度実績 55,000 人予想）</p> <p>・ワークショップ広場：公開講座やイベント等の開催で、  月 24 コマ以上利用</p> <p>・ギャラリーコーナー：年間 15 団体・機関以上利用</p> <p>・利用者目線に立った接遇：利用者アンケート接遇評価  （4 段階評価）3.8  （前年度 3.6）</p> <p>・危機管理に関する研修 3 回程度</p>	
<b>8. 協働の推進</b>	<p>1) 協働事業に対する意識を一層醸成する役割を市民活動支援課および地域活動推進課と連携して進めます。  ・ 協働契約ガイドブックの協働作成 <b>【新規】</b>  ・ 市内認定・指定 NPO 法人設立やネットワークづくりへの協力</p> <p>2) 各区で開催する講座等の取組みへの協力  ・ NPO 法人設立講座や市民活動団体の運営に関わる講座</p>	<p>・認定・指定 NPO 法人ネットワーク：1 回程度</p> <p>・認定・指定 NPO 法人設立講座：1 回程度</p> <p>・NPO 設立講座：3 区程度</p>	
<b>9. 自主事業団体との 連携および協力</b>	<p>1) 実施事業をより多くの方に周知していただくため、当センターの情報媒体(発送物同封、ホームページ、メールマガジン)から積極的に情報発信します。</p> <p>2) 必要に応じて、事業に参加・協力し合います。</p> <p>3) 運営事業団体と自主事業団体間で、事業の進捗や情報を共有するため、意見交換会を行います。</p>	意見交換会：2 回程度	